

2021年2月1日

みずほディーラーズアイ (2021年2月号)

みずほ銀行

目次

| | | | |
|---------|---|-------------|----|
| 米ドル相場 | 2 | 韓国ウォン相場 | 9 |
| ユーロ相場 | 4 | 台湾ドル相場 | 10 |
| 英ポンド相場 | 6 | 香港ドル相場 | 11 |
| 豪ドル相場 | 7 | 中国人民元相場 | 12 |
| カナダドル相場 | 8 | シンガポールドル相場 | 13 |
| | | タイバーツ相場 | 14 |
| | | マレーシアリング相場 | 15 |
| | | インドネシアルピア相場 | 16 |
| | | フィリピンペソ相場 | 17 |
| | | インドルピー相場 | 18 |

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

米ドル相場

予想レンジ: USD/JPY 102.50 ~ 106.00

市場営業部 為替営業第二チーム 原田 和忠

■ 先月の為替相場

先月のドル円相場は103円台でのレンジ推移が継続した。週初、103円台前半でオープンしたドル円は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として、首相が緊急事態宣言を週内にも発令する方向で検討しているとの報道を受け、リスク回避の円買いが広がると102円台後半まで下落。その後はNYダウ平均が下落する展開にドルの買戻しが強まり、103円台前半まで戻したものの、5日には、OPECプラスにて原油生産量のほぼ据え置きが合意される一方、サウジアラビアは生産量の自主減産を発表するなどリスク志向からドル売り優勢となり、102円台後半まで下落した。その後、ジョージア州上院選決選投票での民主党勝利によるバイデン候補の公約である経済対策による国債発行を見越して、米金利の上昇とともにドル買い優勢となる中、民主党が上院決戦で勝利したことにより、上下両院で多数派を確保するトリプルブルーで、大型財政政策の実現への期待感から米長期金利が上昇すると、円安が進行し103.95円をつけた。

11日には本邦休場の中、米金利が堅調に推移したことで、週高値104.40円まで上昇した。しかしその後は、ニューヨーク時間に米10年債入札の結果発表を控え買いが優勢となると、1.18%台に乗せていた米長期金利が1.13%台まで急落。また、銅や原油などの資源価格が上昇したことも相俟ってドル安の展開となり、ドル円は103円台まで下落した。14日には、バイデン次期大統領の追加経済支援策が大規模になるとの期待感から、米金利が再び上昇すると、ドル円も104円台前半まで上昇。ニューヨーク時間に入ると、パウエルFRB議長のハト派発言への警戒感から米長期金利が低下し、103円台半ばまで下落した。

最終週はFOMCを控えてもみ合い推移が継続。FOMC前に、欧州中央銀行政策委員会メンバーであるクノットオランダ中銀総裁が、ユーロ上昇を防ぐために必要ならば中銀預金金利をさらに下げる余地があるとの発言を背景にドル買いが進行。104円台まで戻す場面も見られた。27日に行われたFOMCは、予想通りの据え置きの内容。声明文もほとんど変更はなかったことで、ドル円の動きは限定的となった。しかし、後半にかけて株式市場が大幅に下落する動きにドル買いが強まると、104円台前半まで上昇した。その後もリスクオフのドル買い地合いが続き、米10~12月期GDPやコアPCE等の経済指標の結果は強弱まちまちであったが、104円台半ばまで上昇して推移した。

■ 今月の見通し

今月も引き続きレンジ推移が継続すると思われる。大統領および上下両院で民主党が多数派を確保するトリプルブルーの状況下、バイデン大統領の追加経済対策案による大型財政出動を期待して、経済見通しは改善しつつある。かかる中、米国金利はじりじりと上昇しており、新型コロナウイルスの感染拡大とワクチン投与、経済対策による景気浮上が綱引きとなる相場となる。

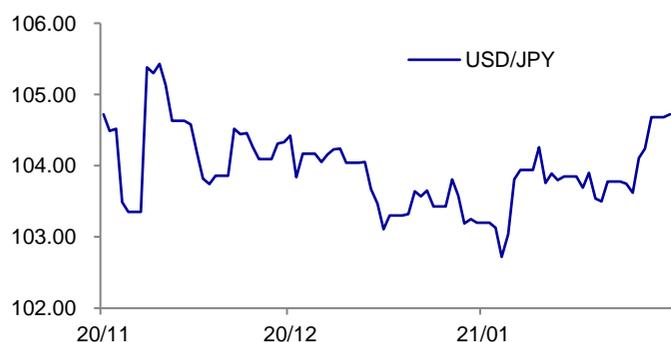
27日のFOMCでは、会見で出口戦略について時期尚早との指摘を行い、新型コロナウイルスの感染拡大への影響が引き続き懸念される中、ハト派的な姿勢を示した。その上で、テーパリングについては不意を突かれることの内容にコミュニケーションに努めると表現し、かつてのテーパータントラムのようなボラティリティの急上昇を避ける意思を明確に示した格好となった。当時、バーナンキ議長が、近いうちに量的緩和の段階的縮小を始めるとの考えを示したことで、金利は急上昇。新興市場にも混乱が広がり、米経済の成長鈍化にもつながった苦い思い出も残る。今回、任期の最終年となるパウエル議長は、新型コロナウイルスによって傷ついた経済に、思わぬ形でダメージを負わずことは避けたかったのである。こうした中、米国金利の上昇は金融緩和が続けられる中においては非常にゆっくりとしたものとなる。

一方で新型コロナウイルスの感染拡大は、世界の感染者が累計で1億人を突破する等、引き続き世界経済に深いダメージを与えている。1月25日にはバイデン大統領が、春までに希望者全員に新型コロナウイルス接種が可能になるとの見通しを示したものの、ワクチンは2回の接種が必要とされており、接種の完了は来年にずれ込む可能性もある。

こうした状況下、年明けのドル円は上下に引っ張られる形でレンジ推移が継続してきた。2月に入っても、新型コロナウイルスの感染拡大が現在とあまり変わらないということになれば、103-105円台を中心としたレンジを大きく離れることは難しいだろう。ドル円は、引き続きもみ合い推移を予想する。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|-------------|-----|-------|-------|-------|
| 1/6 | ISM製造業景況指数 | 12月 | 56.8 | 60.7 | 57.7 |
| 1/8 | ISM非製造業景況指数 | 12月 | 54.5 | 57.2 | 56.8 |
| 1/8 | 非農業部門雇用者数変化 | 12月 | 50k | -140k | 336k |
| 1/8 | 失業率 | 12月 | 6.8% | 6.7% | 6.7% |
| 1/15 | 小売売上高(前月比) | 12月 | 0.0% | -0.7% | -1.4% |
| 1/27 | 耐久財受注(前月比) | 12月 | 1.0% | 0.2% | 1.2% |
| 1/29 | 個人所得 | 12月 | 0.1% | | -1.1% |
| 1/29 | 個人支出 | 12月 | -0.4% | | -0.4% |

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

| | | | | | |
|----|-----|-----------------------|----|----|-----------------------|
| ブル | 11名 | 103.00 ～ 106.00 | ベア | 9名 | 103.00 ～ 105.50 |
|----|-----|-----------------------|----|----|-----------------------|

※レンジは中心値

| | | | |
|----|----|-----------------------|--|
| 田中 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | コロナ感染拡大懸念が続き米国では金融と財政による支援が継続も、ECBの通貨高牽制やPB&Cの引き締めスタンス等中銀間のギャップや個人投資家による市場の攪乱等の弊害が見られ始めている。相場不安定化によるドル買戻しに注意。 |
| 竹内 | ブル | 106.00 ～ 102.00 | バイデン米大統領による財政出動期待やグローバル経済見通しの改善期待を背景に、過度なドル下落シナリオは描き難い。一方構造的なドル余剰に著変なく上値も限定的。レンジ内で下値を緩やかに切り上げる展開か。 |
| 筒井 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | イエレン財務長官は様々な機会を通じ、トランプ政権下のドル安方針を否定。米金利市場もテーパリングを織り込み金利上昇トレンドを描きそう。米国向け投資実需も支援材料に、ドル高下のドル円上昇の可能性が高い。 |
| 加藤 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | 輸出企業による105円近傍のドル売りはそれなりに想定されるものの、すでに本邦は貿易黒字国とは言い難く、リスクオンの対価としてのEURの魅力が剥落すれば結局ドル円は105-110のレンジに戻されると思う。 |
| 山岸 | ベア | 105.50 ～ 103.00 | 1月FOMCでもコロナの影響で雇用中心に厳しい景気認識を示し、金融緩和姿勢継続からドル安トレンドは続く予想。一方でワクチン接種、米経済活動正常化期待が徐々に高まり、1%台定着の長期金利も背景に、下値も限定的となりそう。 |
| 牛島 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | 1月初旬の三者会合で103円から下値は堅くなった印象。バイデン新政権による財政支出から米金利上昇とともにドルが買い戻される展開となりそう。ただし、105円アッパーはオファーも多く、上昇スピードは緩慢。 |
| 田坂 | ブル | 105.00 ～ 103.00 | バイデン新政権による大型の追加財政出動やワクチン効果期待がドル円のサポートとなろうが、实体经济の改善を特段確認できない状況下米金利がここからさらに上昇するとは考え難く、上値も限定的。 |
| 尾身 | ベア | 105.00 ～ 102.00 | ドル売りの流れは継続していると考えている。背景は、低金利政策の継続、追加財政政策への期待、バイデン政権による政策など。但し、コロナ収束の不透明感や株価下落などが、リスクオフのドル買いを起こしておりスピードは緩やかだろう。 |
| 上野 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | 過剰流動性の恩恵を受けていたリスク資産の上昇は踊り場局面を迎えていると思う。リスクオンのドル売りは後退。テーマはバイデン新大統領の財政出動に移ろうか。財政出動の蓋然性が高まれば、米金利主導でドル買いが強まる展開も。 |
| 山口 | ベア | 105.50 ～ 103.00 | ワクチンへの期待感はあるものの、世界的な新型コロナ感染者、入院患者は拡大を続けている。米景気の本格的な回復はまだ先と見ており、FOMCは緩和スタンスを維持。年度末も意識されドル円は引き続き上値が重い。 |

| | | | |
|-----|----|-----------------------|--|
| 甲斐 | ベア | 105.00 ～ 103.00 | コロナの感染拡大が収まりきっていない中では、米金利の上昇は限定的だと思われる。そのため、本格的な米金利上昇、ドル円の上昇にはもう少し時間がかかると思われる。 |
| 小野崎 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | バイデン新政権への期待感の高まりに伴い米金利は上昇。当面は連れてドル高の展開が継続するだろう。ただし、新型コロナウイルスの拡大は留まっておらず上値も限られる。 |
| 玉井 | ベア | 105.00 ～ 103.00 | 米経済対策期待を背景に、米金利は上昇したが、巨額の経済対策は共和党から反発が出やすく、交渉に時間がかかるようだと不透明感が広がるのではないかと。FRBも緩和姿勢を変えておらず、引き続きレンジ内で上値の重い推移となりそう。 |
| 原田 | ベア | 106.00 ～ 102.50 | 引き続きレンジ推移が継続すると予想。バイデン大統領による大型財政出動を期待し、経済見通しは改善しつつあるが、新型コロナウイルスの感染拡大は止まっておらず、ドル円は上下に引っ張られる形でもみ合いとなろう。 |
| 大庭 | ブル | 106.00 ～ 103.50 | 年明けから為替相場は転換局面を迎えたと考える。米10年金利の上昇と共にドル円も104円台を回復。日足の一目均衡の雲の上限をしっかりとぬければ、104円台前半のサポートラインとなろう。コロナも今が北半球の最悪期か。 |
| 上遠野 | ベア | 105.50 ～ 102.50 | 米国の追加景気刺激策やワクチン接種の拡大など比較的ポジティブ材料が多いものの、米金利の低位推移および米財政赤字を懸念したドル売り地合いは当面継続するものと考えたい。 |
| 小林 | ベア | 105.50 ～ 102.00 | ECB高官のユーロ高けん制発言をきっかけに対ユーロでドルが買われ、つれ高でドル円は104円台を回復したものの、緩和政策の長期化やコロナ感染状況の改善されないこと等が重しとなり、積極的なドル買いの流れとなるのは考えづらい。 |
| 逸見 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | ドルの過剰供給によるドル安圧力は根強いものの、バイデン新政権の経済対策による米景気回復期待の高まりによって、米金利は堅調に推移。ドル円も底堅く推移する展開を想定。 |
| 大谷 | ベア | 105.50 ～ 103.00 | 米長期金利は足元1%台に上昇しているものの、上昇基調は一服。パウエルFRB議長からは早期のテーパリングを否定する発言も出ており、FRBの緩和的スタンス続く中、ドル円は引き続き上値重い推移を予想。 |
| 大熊 | ブル | 106.00 ～ 103.00 | 足許の米経済指標は改善が見られ、バイデン新政権による財政出動への期待も高い。また、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見えない状況下ではまだ安全通貨としてのドル買いが活発化しやすいことから、底堅い展開を予想する。 |

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.1800 ~ 1.2200
EUR/JPY 124.00 ~ 127.00

金融市場部 グローバルFIチーム 加藤 倫義

■ 先月の為替相場

新年開けて1月のEUR/USD相場は主に米国の利回り上昇をきっかけに昨年末までのリスクオンを主因として一本調子に進んできたドル売りの流れに大きく調整が入った。

1.22台半ばで新年入りしたEURは原油高やワシントンでの抗議デモによる混乱を背景に先ずは上値をトライした。6日には月内高値の1.2349を示現するものの、米国利回りが急激に上昇を始め、大量に積み上がって来た投機筋のユーロロング/ドルショートポジションは大きく巻き戻され始めた。

第2週は1.21台前半まで落ち込んで始まったが、米10年債入札に絡み米国利回りが低下すると1.22台に値を戻す場面も見られた。しかし、イタリアの連立政権で少数政党のレンツィ元首相が連立政権からの離脱を表明し、複数の官僚も政権を離脱したとの報道が嫌気されると、EUR/USDは再び1.21台に押し戻された。ただ、その後は米金利低下やパウエルFRB議長の「超緩和的な金融政策の出口について話す時期ではない」との発言もあり、翌週のバイデン次期米国大統領の会見を前に落ち着くかと思われた。しかし、米国メディアがバイデン政権による景気対策が2兆ドルになる見通しと伝えるとドルショートポジションを手仕舞う動きが活発化し、ユーロ/ドルは1.21割れで3週目を迎えた。

NY市場が休場で薄商いの中1.2054の安値を示現したEUR/USDはその後イエレン前FRBに対する指名承認公聴会の後、一時ドル売りが優勢となり、1.21台に買い戻されることとなった。また、その後のECB政策理事会において、金融政策は予想通り据置きとなったものの、ラガルドECB総裁が景気見通しに対して、下振れリスクが以前より顕著ではなくなったと発言したことが好感されて、ユーロ/ドルは1.21台後半で4週目へと向かうことになった。

4週目に入って、27日に独政府が今年GDP予想を3%と、前回10月時の見通し4.4%から大幅に下方修正したことや、クノットオランダ中銀総裁の「ECBは金利の下限に達しておらず、利下げ余地がある」とのユーロ高牽制ではないかとも取られる発言が伝わるとユーロ売りドル買いが強まり、ユーロ/ドルは直近の安値に迫る1.2058まで売り込まれた。28日には米株式市場で一部投機規制によって混乱が収束し株式市場が上昇したことを受け、リスクオンのドル売りユーロ買いが見られたが、1.21半ばを抜けることはなく1.2100近傍で取引されている。

■ 今月の見通し

年初より顕在化した、それまでのリスクオンのドル売りというテーマで積み上げられてきたユーロロングポジションの調整は2月も続く可能性が高いと考える。

1月20日に発表されたユーロ圏12月消費者物価指数(HICP)は、速報値から変わらず-0.3%と5ヶ月連続でマイナスとなっており1月もマイナスということになると過去最悪の落ち込みということになる。この物価低迷の主因は原油価格の落ち込みに由来するものであることは明らかであるものの、インフレ期待も長期にわたって過去に例のない落ち込みを示しており、コロナ以前から見られていた軟調な動きにとどめを刺された格好である。

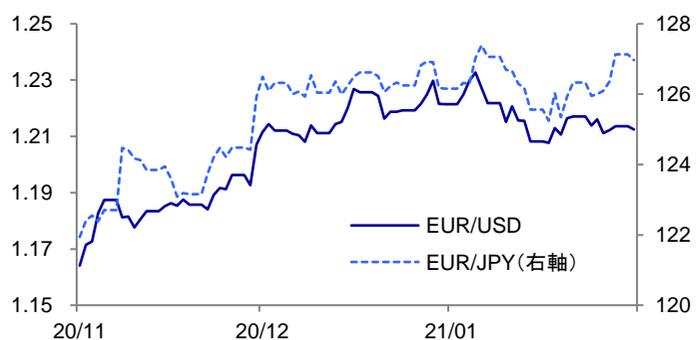
ユーロ圏の基本認識として、貿易黒字に裏打ちされた世界最大の経常黒字圏であることは確かであり、例えばドイツはいまだに国内の生産力が落ちていると、輸出・生産拠点の地位を保っている。その面から言えばリスクオン相場になったときに売られるドルの対価としてユーロが筆頭であることは間違いがない。ただ、それゆえ投機的なユーロロングが積みあがりやすい面もある。

その一方で物価の面からは黄色信号が灯っているとも考えられる。前述のように2月3日公表の1月消費者物価指数速報値がマイナスになれば過去最悪の落ち込みとなり、2021年通期に対する影響は決して小さくない。更に原油価格以外に鉱工業財も消費者物価指数のマイナス寄与に転じており、サービスや食品、アルコール・タバコなども低迷しており、当然これらは賃金の低下懸念となってユーロ圏経済に悪影響を及ぼすであろう。

また、ECB政策理事会の際の記者会見ではいつものようにラガルド総裁が「政策目標ではないがインフレを筆頭として経済に大きな影響を与えるものとして非常に注目している」とユーロ高けん制をしたが、足元で米国の実質金利に底打ちの兆しも見え始めている状況で、それに呼応してユーロ高もピークアウトする可能性は決して否定できないと思う。米国の利回りを見ても環境の変化が感じられる。あくまで新型コロナに対するワクチンがある程度効果を発揮する前提ではあるが、米国の利回りはもう少し回復し、ユーロ/ドルはそれに合わせた一段の調整相場を想定したい。

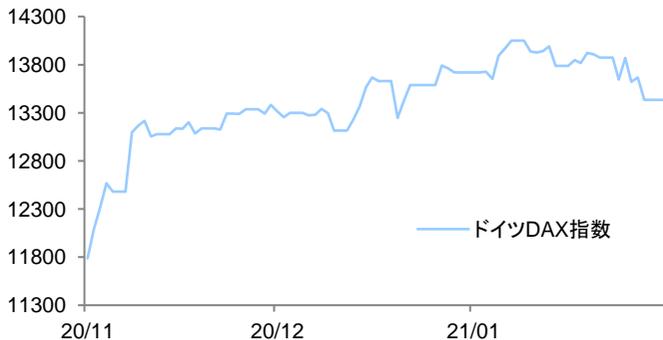
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|-------------------|-----|-------|-------|-------|
| 1/7 | 欧州小売売上高(前月比) | 11月 | -3.4% | -6.1% | 1.5% |
| 1/7 | 欧州CPI(前月比) | 12月 | 0.3% | 0.3% | -0.3% |
| 1/13 | 欧州鉱工業生産(前月比) | 11月 | 0.2% | 2.5% | 2.1% |
| 1/19 | 欧州ZEW景気期待指数 | 1月 | - | 58.3 | 54.4 |
| 1/21 | ECB主要政策金利 | 1月 | 0.00% | 0.00% | 0.00% |
| 1/22 | 欧州マークイットサービス業PMI | 1月 | 54.4 | 54.7 | 55.2 |
| 1/22 | 欧州マークイットコンポジットPMI | 1月 | 44.5 | 45.0 | 46.4 |
| 1/22 | 欧州マークイットコンポジットPMI | 1月 | 47.6 | 47.5 | 49.1 |
| 1/25 | 独IFO企業景況感指数 | 1月 | 91.4 | 90.1 | 92.1 |

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ

| | | | | | |
|----|----|-----------------------|----|-----|-----------------------|
| ブル | 6名 | 1.2000 ～ 1.2300 | ベア | 14名 | 1.2200 ～ 1.1900 |
|----|----|-----------------------|----|-----|-----------------------|

※ レンジは中心値

| | | | |
|----|----|-----------------------|--|
| 田中 | ブル | 1.2300 ～ 1.1900 | ECBによる通貨高牽制やイタリア政局不安、コロナ感染拡大を受けてのロックダウンと経済への悪影響等ユーロにネガティブな材料は多い。ドル買戻しに注意も需給面で支えられる状況不変で底堅い展開を想定。 |
| 竹内 | ブル | 1.2300 ～ 1.2000 | 構造的なドル余剰環境、実需面からのユーロ高は当面継続か。高水準のユーロロングを調整しつつ、底値を固める展開か。コロナの欧州経済への悪影響は概ね織り込み済みで、更なる新規悪材料が出てこない限り、ユーロ下押し材料とはならず。 |
| 筒井 | ブル | 1.2400 ～ 1.1950 | ユーロドル市場動向の決定要因は需給動向で、それはユーロ高を示す。2月はドル安から緩やかなドル高への転換期との見立てから、1月のレンジをやや超える範囲での値動きとなりそう。 |
| 加藤 | ベア | 1.2200 ～ 1.1800 | 新型コロナの影響でユーロ圏の経常黒字を支える貿易黒字に影響が出てくるものと予想。また、消費者物価は過去最悪に落ち込みそうであり、それは賃金にも波及し、ユーロ買いは頭打ちになると予想する。 |
| 山岸 | ベア | 1.2300 ～ 1.1900 | 直近のIMF予測では21年のユーロ圏GDP見通しを下方修正、企業景況感も悪化するなど、コロナによる経済活動制限の影響深刻。当局者からのユーロ高牽制、イタリア政局も重荷で、半年ほど続いた上昇トレンドには一服感が出ると予想。 |
| 牛島 | ベア | 1.2200 ～ 1.2000 | ECB高官からはEUR高牽制発言とともに利下げも言及されており、一方のFRBは年内のテーパリングに言及される中、金融政策の違いからEURは弱含む展開が続くそう。 |
| 田坂 | ベア | 1.2200 ～ 1.1900 | 新型コロナ感染拡大深刻化に伴う欧州経済への打撃、足元見られるECB当局者たちによるユーロ高牽制発言や利下げ言及等を勘案すると、これまでのユーロ上昇基調は一服、緩やかな下落を予想。 |
| 尾身 | ブル | 1.2300 ～ 1.2000 | EURは堅調地合いが継続すると予想している。背景は、ドル売り地合いの継続、米欧金利差の縮小。リスクは政策金利の引き下げ。先月はオランダ中銀総裁から利下げ余地の言及がありEURが弱含む場面が見られた。 |
| 上野 | ベア | 1.2300 ～ 1.1900 | ユーロは実需面での需要の高さなどを理由に、過剰流動性下で消去法的に選好されていたように思う。その相場が踊り場を迎え、欧州でのコロナ拡大・ロックダウン、当局者のEUR高けん制を踏まえると、待っているのは巻き戻しでは。 |
| 山口 | ベア | 1.2250 ～ 1.2000 | 世界銀行、IMFは2021年のEUの経済成長率見通しを引き下げており、コロナの影響を受けた景気下振れは継続すると予想。ECB当局者によるユーロ高けん制発言やさらなる利下げを示唆する声も出ており、ユーロは軟調推移を予想。 |

| | | | |
|-----|----|-----------------------|--|
| 甲斐 | ブル | 1.2300 ～ 1.2000 | 昨年終盤もECB高官からの牽制発言が出ながらも、高値を更新しており、ドル安トレンドが反転するまでは、EUR高が継続すると予想。 |
| 小野崎 | ブル | 1.2300 ～ 1.2000 | ECB高官によるユーロ高牽制発言でもEUR高傾向は変わらず。USDの余剰という構造からも相対的にEURが買われる環境は継続。 |
| 玉井 | ベア | 1.2200 ～ 1.1900 | ユーロ圏は新型コロナウイルスの影響でロックダウンを延長している国も多く、米国対比経済回復は遅れそう。またECB高官から利下げの話も出ており、ユーロは上値が重くなると予想する。 |
| 原田 | ベア | 1.2300 ～ 1.2000 | 米金利が1%台に上昇したことで、ドル売りの流れは一服。一方で、新型コロナ変異種への警戒がくすぶっている状況下では、ユーロは買われにくい方向感の乏しい展開を予想。 |
| 大庭 | ベア | 1.2250 ～ 1.2000 | クノット・蘭中銀総裁からのEUR高牽制発言に加え、複数のECB当局者から市場が利下げ確率を過小評価と認識しているとの発言もあり、ユーロを買われにくい展開を予想。年初の高値でピークアウトか。 |
| 上遠野 | ベア | 1.2200 ～ 1.1850 | 長引くロックダウンによる経済的悪影響が懸念されるほか、ECBの金融政策については現行維持も方向としては緩和強化である印象であり、ユーロ安地合いがメインシナリオとなりそう。 |
| 小林 | ベア | 1.2300 ～ 1.1900 | 欧州中央銀行政策委員会メンバーであるクノットオランダ中銀総裁によるユーロ高けん制発言により、ユーロの上値が抑えられるだろう。引き続きコロナ感染状況も思わしくなく、積極的なユーロ買いの展開は考えづらい。 |
| 逸見 | ベア | 1.2200 ～ 1.1800 | 欧州経済圏の景気下振れリスクやECB高官によるユーロ高牽制発言を踏まえると、ユーロを買い進め難い環境。加えて、米景気回復への期待感の高まりによってドルが買われ易く、ユーロは軟調な展開を想定。 |
| 大谷 | ベア | 1.2200 ～ 1.2000 | ユーロは上値重い推移を予想。欧州でのロックダウンの長期化や、イタリアでの政局不安は引き続きユーロの上値を抑えよう。また、ECB高官からはユーロ高を牽制する発言が出てきており、ユーロ相場の重しとなるだろう。 |
| 大熊 | ベア | 1.2200 ～ 1.2000 | 欧州主要国のロックダウン長期化による景気下振れ懸念が熾り、経済正常化への期待が剥落しつつある。イタリアの政局不安も重しとなり、リスクオフのドル買いの局面ではユーロが売られやすく、軟調推移を予想する。 |

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.3000 ~ 1.4000
GBP/JPY 135.00 ~ 146.00

欧州資金部 神田史彦

■ 先月の為替相場

先月のポンドは上昇。世界的なドル安を背景に年初4日は一時対ドルで2018年以来の高値となる1.3703をつけるスタートだったが、英政府が同日夜に新型コロナに関する発表をすとの報道を嫌気してか売りに押されて結局1.36を割り込む荒い値動き。英国は3度目のロックダウンとなると、5日は1.36レベルを上値にやや重い値動きとなったが、1日を通じて安値を拾う動きが見られると米国時間には1.36台を回復。翌6日は1.36台後半へ小幅に上昇したものの、米ジョージア州の決選投票で民主党候補が勝利すると米長期金利の上昇とともにドルが買い戻され再び1.36を割り込む場面も。7日はドル買い基調の中で1.36を挟んでもみ合い、結局1.35台中盤へ下落。8日はドル買いの巻き戻しでじりじりとポンドは買い戻され、米12月雇用統計後にドルが上下する中でポンドも1.36を挟んで振れる展開に。週明け11日は続く米長期金利の上昇によるドル高でポンドは月中安値1.3451まで下押しとなったがそこから反発。すると12日にはベイリー英中銀総裁が「マイナス金利には問題が多い」とのコメントをしたことで1.36台後半まで大幅上昇となった。その後は1.37を挟んでもみ合いとなったが週末にかけてはドル高が強まり1.36を割り込んで越週。翌週はドル休日もあり方向感の定まらない立ち上がり。20日にはワクチン接種率に着目したと見られるポンド買い・ユーロ売りも見られた。その際に直近の対ドルのレンジをやや上げたこともあってか翌21日からは上値を試す展開に。26日には一時1.36前半へ下げる場面もあったが、英政府の自主隔離プランや英ワクチン接種率の高さを好感してか1.37台半ばへ買い戻された。27日には1.3759の月中高値をつけたが、欧州中央銀行の政策委員がユーロの為替レートについて言及したことで売られたユーロにつれて1.37を一時割り込む荒い値動き。28日には米第4四半期GDPがやや予想を下回ったことでドルが下落するとポンドは1.37台を回復し月末を迎えた。

■ 今月の見通し

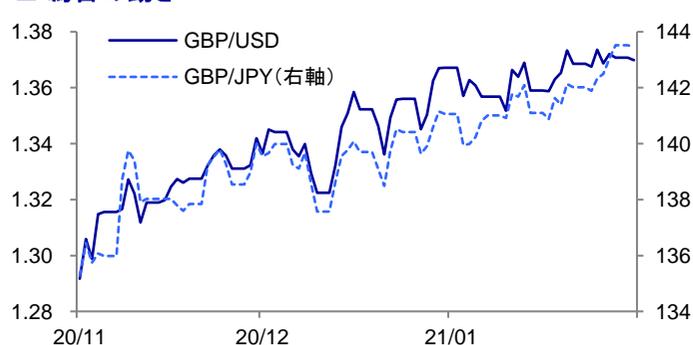
今月のポンドは上値重い展開を予想。注目は英政策金利と新型コロナ情勢。英中銀は4日に金融政策委員会を開く。1月中旬に政策委員らからマイナス金利の可能性についてのコメントが聞かれたものの、ベイリー総裁が難色を示したことでポンドは堅調を維持している。ロンドン支店のハウスビューでは2021年内のマイナス金利導入は予想しておらず、今回も政策金利変更はないとみている。ただ一部ではマイナス金利ではなく、0.1%利下げでゼロ金利化を見る向きもあり、ポンドが上下動するリスクには留意。英中銀は昨年11月に資産購入枠を広げ、政府の経済補助金拡大と歩調を合わせており、先月のロックダウンに併せて政府が企業向けの補助金を拡充したことと呼応する可能性はあるかもしれないが、こちらはあまり為替へのインパクトは限定的だろう。新型コロナについては引き続き、リスクが高まるとドル高(ポンド安)という構図は不変。ただ、直近はコロナワクチン接種率で通貨を選好する動きが見られているようだ。各種報道によると1月28日時点で英国の対人口比接種率は10%を超えており、主要国では米国の7%程度と比しても高く、欧州各国の5%未満よりは明確に高い。これによりポンドはユーロよりも強めの推移を続けている。もちろん各国のワクチン接種が進捗していけば解消されるものでもありポンドの選好がいつまで続くのかは不透明。ブレクジット後の暫定FTA発効後に物流に大きな混乱は起きていない。ただ、一部では既存のサービスが停止されていたり、避けられない通関手続きなどの話もきかれ、企業側の負担は確実に増している。また新型コロナの影響もあり英自動車生産は2020年に36年ぶりの低水準となった。英1月の製造業景況感指数は節目の50を上回っているものの昨年12月よりも下がっており、3度目のロックダウンの影響も多分に含まれているとはいえ、今後の英ハードデータへの波及が英中銀の政策へ及ぼす影響も踏まえ注目される。

「当地で便利な家電」

英国ではいわゆる家電量販店はなく、通販で家電製品を購入することが一般的であるため、店舗で家電のトレンドを知ることが難しい(筆者が疎いだけかもしれませんが)。チーム内で聞いてみたところ、「人工太陽」がこの時期人気だという。もともと欧州では冬時間の日照時間が短く、冬季に鬱症状を発症する例が多い。そしてロックダウン下で明るい国へ旅行に行けず部屋の中で在宅勤務するという、さらに精神的に抑圧されている中で注目されている模様だ。「人工太陽」と言っても形状はライト型(とはいえ、ディスプレイのような部品がついており四角い幅広のデザインが多い)で、通常のライトよりも強めの明かり(約20倍程度)が照射されるらしい。これにより鬱症状が治るといったものではなく、あくまで鬱の徴候を和らげる効果があるとのこと。もし在宅中で日光浴が足りないと感じているのであれば調べてみると良いかもしれません。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|-----------------|-----|-------|-------|-------|
| 1/4 | 製造業PMI | 12月 | 57.3 | 57.5 | 57.5 |
| 1/6 | サービス業PMI | 12月 | 49.9 | 49.4 | 49.4 |
| 1/7 | 建設業PMI | 12月 | 54.6 | 54.6 | 54.7 |
| 1/15 | 鉱工業生産(前年比) | 11月 | -4.2% | -4.7% | -5.8% |
| 1/15 | GDP(月次) | 11月 | -4.6% | -2.6% | 0.6% |
| 1/20 | 消費者物価指数(前年比) | 12月 | 0.5% | 0.6% | 0.3% |
| 1/22 | 小売売上高(含自動車/前年比) | 12月 | 4.0% | 2.9% | 2.1% |
| 1/22 | 製造業PMI | 1月 | 53.6 | 52.9 | 57.5 |
| 1/26 | ILO失業率 | 11月 | 5.1% | 5.0% | 4.9% |

豪ドル相場

予想レンジ: AUD/USD 0.7520 ~ 0.7820
AUD/JPY 78.85 ~ 81.10

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

■ 先月の為替相場

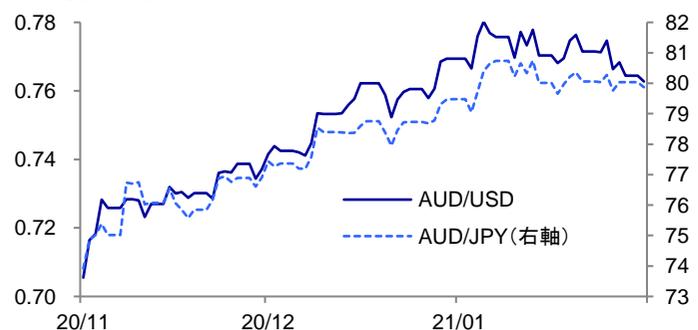
1月の豪ドル相場は年初から27日まで米追加景気刺激策への期待と米金利上昇との間でのほぼシーソー状態となり、0.7643から0.7820のレンジ内の上下振幅となった。4日、0.77台前半で取引開始後、6日、米ジョージア州上院決選投票で民主党が2議席獲得となり、大型刺激策への期待で米株は最高値を更新、豪ドルは0.7820まで上昇。米10年債利回りが1%台に乗せるもドル買いにはつながらなかった。但し翌7日は米金利上昇継続で遂にドル買い戻しの動きが強まり豪ドルはじり安。8日、米12月雇用統計で非農業部門雇用者数変化が大きく落ち込み、追加景気対策に対する期待から米金利が更に上昇。米ドル買いの反応で、豪ドルは0.77半ばまで下落した。14日、パウエルFRB議長講演を控え、市場でのハト派コメント期待から米ドル売りとなり、豪ドルは一時0.78台のせ。18日、中国12月小売売上高(前年比)と4QGDP(前期比)が振るわず前回値、市場予想を共に下回った。2021年に入り、足下では中国元高が継続していたが、一時1ドル6.5台まで戻し、豪ドルも連れ安となった。19日、イエレン前FRB議長の指名承認公聴会開催に先立ち、経済再生に向けた支援策を進める姿勢が強調されるという期待から株高、リスクオンとなりドルが売られた。20日は0.76台後半から0.77後半まで1日を通して右肩上がりの上昇を見せた。バイデン氏の米国大統領就任式にかけては米追加経済対策への取り組みについての期待から米株は過去最高値を更新した。21日、豪12月雇用統計に関して、失業率は市場予想よりも改善を見せたものの、正規雇用者数の伸びが前回値より鈍化した事で豪ドル相場の更なる着火剤とはならなかった。27日は豪4QのCPIが市場を上回り0.77後半で10pips程度上昇するも利益確定の動きや前夜から相次いでいるリスク回避のドル売りの流れもあり、豪ドルは0.77前半へと下落。NY時間、株が下げ幅を拡大すると0.7644まで下落した。28日シドニー早朝発表の米FOMCは政策据え置きで、声明文も債券買い入れ規模も変化なし。但しパウエルFRB議長の会見でTaperingについて「時期尚早」と述べ、「顕著な進展まで“一定の時間”がかかりそうだ」と債券購入減額に対しての期待を一蹴するようなコメントをしたことで、米債10年利回りは1%近辺まで下落したものの、リスク回避の流れが継続し、豪ドルは一日を通して下落を続け、0.75台へと突入した。

■ 今月の見通し

ここにきて直近足下では株の利食いや米金利上昇、リスク回避のドル買いフローが目立ってきており、上値が重くなってきた印象を受ける。豪州国内では堅調なデータ等ポジティブなヘッドラインが比較的多く、直近発表になった豪12月雇用統計では失業率が6.8%へと改善し、豪景況感も4カ月連続で上昇するなど回復基調がうかがえるデータが多数出てきている。また、新型コロナの状況についても市中感染はごく僅少になっており、豪政府が発表した2021年1月31日時点の新型コロナ感染者数は78人(推定)、1日の新規感染者数は7人。NSW州では1月29日からショッピングモール等小売店でのマスク着用義務が撤廃されるなど徐々に新型コロナウイルス関連規制が緩和され、今月1日からはQLD州がNSW州全土に対し州境を開放し、強制隔離なしでの入境が可能となる。このような状況改善を受けての規制緩和と新型コロナウイルスのワクチン配給に先立ち豪経済への回復期待はあるものの、豪州単体でのポジティブなニュースや指標に対する豪ドル相場の反応がやや薄くなってきており、市場の焦点は米FRBの金融政策の方向性やバイデン政権による追加経済対策に移ってきていると感じる。直近FOMC後のパウエルFRB議長の会見で「時期尚早」や「一段と顕著な進展まで“一定の時間”がかかりそうだ」と述べ、市場のテーパリング期待を鎮静化させたが、その際に米金利は下落したものの、逆に出口政策まで長い道のりと見込むネガティブな側面で反応し、リスク回避によるドルの買戻しが散見された。その流れを受け継ぎ、豪ドルは0.76台を割り、年初来安値を付けた。先月に豪ドルは0.78台乗せ0.7820近辺で心理的に上値を抑えられてしまっており、下方向へは行き易いかもしれない。そういう意味で2月は年初来からのレンジが下方向に広がると予想する。まずは2日、今年初顔合わせのRBA理事会の声明文発表で、内容とそれに対する豪ドルの動きを確認したい。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|---------------|-----|----------|----------|----------|
| 1/7 | 住宅建設許可件数(前月比) | 11月 | 2.0% | 2.6% | 3.3% |
| 1/7 | 貿易収支 | 11月 | A\$6400m | A\$5022m | A\$6583m |
| 1/11 | 小売売上高(前月比) | 11月 | 7.0% | 7.1% | Nov |
| 1/21 | 雇用者数変化 | 12月 | 50.0k | 50.0k | 90.0k |
| 1/21 | 失業率 | 12月 | 6.7% | 6.6% | 6.8% |
| 1/22 | 小売売上高(前月比) | 12月 | -1.5% | -4.2% | 7.1% |
| 1/27 | CPI(前期比) | 4Q | 0.7% | 0.9% | 1.6% |
| 1/27 | CPI(前年比) | 4Q | 0.7% | 0.9% | 0.7% |

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.2500 ~ 1.3200
CAD/JPY 77.00 ~ 85.00

米州資金部カナダ室 金本 玲子

■ 先月の為替相場

1月のUSD/CADは1.2733でオープン。月間安値は1.2590(1/21)、月間高値は1.2881(1/28)。年明け4日、米・カナダ株式相場は下落。ジョージア州での上院議員選の決選投票を控えた利益確定売りや、コロナウイルス感染急増により、各国で制限措置が取られていることなどが背景。原油価格(WTI)の下落も伴い、USD/CADは1.28近くまで上昇。5日、サウジアラビアが2月、3月の産油量を追加で日量100万バレル、自主的に削減する方針を表明したことにより、WTIは大幅反発。2020年2月以来となるUS\$50/バレルを突破、USD/CADは一時1.2658まで下落。8日発表のカナダ12月雇用統計は、雇用者数が前月比6.26万人減、2020年4月以来のマイナスとなり、市場予想3.75万人減も下回った。失業率も前月から0.1%上昇し、8.6%と7か月ぶりに悪化した。11日、コロナウイルスの先行き不透明感や相場の過熱感を警戒し、米・カナダ株式相場は反落。上昇を続けていたWTIも減速したことにより、1.2835を付ける。12日以降は米原油在庫の予想を上回る減少を受け、再びWTIは続伸、US\$53/バレル周辺での取引が続き下落。14日にはFRBのパウエル議長が、早期の利上げはないと示唆したこともあり、USD/CADは1.265を割り込む。15日、朝方発表された各米経済指標の低調、中国におけるコロナ感染再拡大への懸念などにより、WTIは反落し1.2765まで上昇。20日にはバイデン氏が米大統領に就任、追加の経済刺激策による景気の押し上げへの期待から、リスク選好ムードが高まり、一時1.2608まで下落。同日のカナダ中央銀行の政策決定会合では政策金利は据え置かれた。声明では、第1四半期の実質GDPはマイナス2.9%が予想されるが、中期的にはワクチン接種と国内外の需要回復により、2021年終盤には経済成長率はコロナ前の水準に戻るとの認識を示した。インフレ率については、2023年まで目標である2.0%に達することはなく、低金利は継続するとした。21日も前日の流れを引き継ぎ、リスクオン地合となった。朝方はカナダ中央銀行のMacklem総裁が、国内経済には十分な刺激策が備わっており、現時点で追加の金融緩和は不要との見方を示したことにより、USD/CAD1.2590と、2018年4月以来の高値をつけた。しかし世界的なコロナウイルス感染状況の悪化による需要回復への懸念が高まり、WTIが下落。22日には1.27前半まで値を戻す。27日のFOMCでは政策金利は据え置き、声明文の内容にも大きな変更はなかった。USD/CADは1.28台前半で推移していたが、29日朝発表のカナダ11月GDPが、前回分および事前予想を上回ったため、買いが進み、29日午前11時時点で1.27台後半での取引が続いている。

■ 今月の見通し

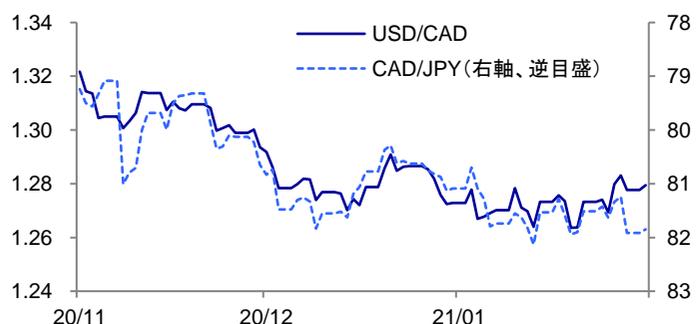
2月のUSD/CADは概ね1.26-1.29での推移を予想。カナダでは1月14日からオンタリオ州に在宅指示発令が出され、経済活動の制限が強化されている。州によってコロナ感染件数の推移は異なるものの、12月の小売売上高や1月の雇用統計など、2月に発表されるカナダの経済指標は縮小、低水準になると予想される。ワクチン接種に関しては遅れも指摘されているが、今後早期に体制が整備され、ワクチン接種が順調に進めば、2021年終盤にはコロナ前の水準近くまで、国内経済が回復する可能性は考えられる。1月に発表された、カナダ中央銀行の第4四半期Business Outlook Surveyでは、多くの企業が今後1年の間に売上が回復すると予測しており、また需要回復を見込んで投資と雇用に力を入れると回答した。11月中旬から12月初旬にかけての調査であり、一部の州がより厳しい制限措置を実施する前の回答ではあるものの、ワクチンの実用化への期待と政府の支援プログラムにより、全体としてポジティブな結果となった。また1月のMonetary Policy Reportでも、国内経済成長率は通年で2021年が+4.0%、2022年は+4.8%、2023年には+2.5%が見込まれている。政策金利に関しては、インフレ目標の2.0%を回復すると予想される2023年まで利上げはないと予想される。利下げの可能性については、Macklem総裁が1月会合後の記者会見で、経済見通しを大幅に下回るような状況になった場合、小幅利下げも依然として選択肢の一つであると発言している。また為替についても、カナダドル高は国内経済のリスクとなる可能性があるという趣旨の発言があったことから、さらにカナダドル高が進んだ場合には、小幅利下げなどの対応が取られる可能性が考えられる。WTIについては、コロナウイルスの状況により、マーケットでリスクオン、オフの繰り返しが続くことにより、US\$40-50/バレル周辺での取引が続くと予想。経済回復への期待と減産調整により、一時的な価格上昇はあるものの、全体として需要低迷が懸念される中、上値は重いと考える。しかし中長期的には各国の経済回復が期待される中、WTIが急激に下落する可能性は低いと考えられ、1.30を下回る現在のUSD/CAD水準が続くと予測される。またカナダでは量的緩和が現行のペースで維持されると予測されることから、USD/CADは概ね1.26-1.29での推移を見込む。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当で人気・便利な家電やデジタル小物』
私が個人的に気に入って、カナダに来てから使い始めたキッチン家電はスロークッカーです。ブイオンと一緒に肉や野菜を入れてスイッチを入れれば、5-8時間くらいで柔らかく味の染み込ませた煮込み料理が完成します。時間はかかりますが、電気なので調理中ずっと見ている必要がなく、予約機能がついているものもあるので、とても便利です。カナダの台所は日本と比べて広めなので、大型オープン、大きな食器洗浄機はキッチンにビルトイン式で設置されています。ちなみにカナダの水道水は問題なく飲めると言われていますが、浄水器はBRITAのものが人気で、家庭でよく使われています。コーヒーを淹れるのに、K-CUPのコーヒーマシンを使っている家庭やオフィスも見られます。コーヒー豆が入った専用の小さなカプセルをセットすると、コーヒーが1杯ずつ30~50秒程度で淹れられるマシンです。これについてはプラスチックごみが増えることを問題視する声が上がっており、各メーカーは100%リサイクル可能なプロセスの構築を進めています。また日本ではほぼ一家に一台炊飯器があると思いますが、炊飯器は持たずお鍋でお米を炊いている家庭が多いように思います。日本のような高機能な炊飯器はなかなかこちらでは見つけれず、炊飯と保温のみのシンプルなものが一般的ですが、お米を頻りに食べたい人にはあると便利です。日本の家電を使う場合には、カナダとは電圧が異なるので変圧器が必要です。友人は日本に旅行した際に、ホームベーカリーを買ってきましたが、ホームベーカリー自体は1万円程度だったものの、こちらで使うための変圧器を買ったところ、1.5万円ほどしたそうです。カナダで家電やデジタル小物を買うとすると、Canadian Tire、Best Buy、Costco、WalmartもしくはAmazonあたりになると思います。

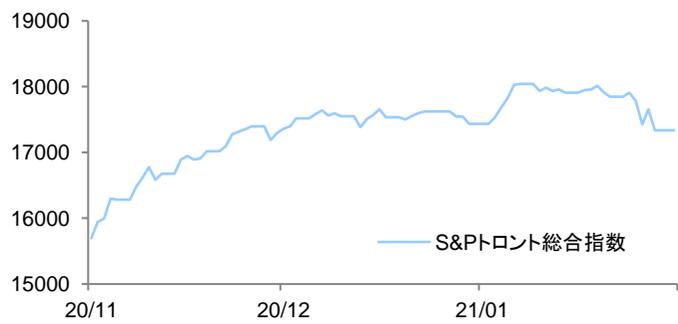
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|--------------|-----|---------|---------|---------|
| 1/4 | Markit製造業PMI | 12月 | - | 57.9 | 55.8 |
| 1/7 | 貿易収支 | 11月 | -3.50bn | -3.34bn | -3.73bn |
| 1/8 | ネット雇用者数変化 | 12月 | -37.5k | -62.6k | 54.6k |
| 1/8 | 失業率 | 12月 | 8.7% | 8.6% | 8.6% |
| 1/18 | 住宅着工件数 | 12月 | 230k | 228.3k | 261.2k |
| 1/19 | 製造業売上高(前月比) | 11月 | -0.4% | -0.6% | 0.2% |
| 1/20 | CPI(前年比) | 12月 | 1.0% | 0.7% | 1.0% |
| 1/20 | カナダ中央銀行政策金利 | - | 0.25% | 0.25% | 0.25% |
| 1/22 | 小売売上高(前月比) | 11月 | 0.0% | 1.3% | 0.1% |
| 1/29 | GDP(前月比) | 11月 | 0.4% | 0.7% | 0.4% |

韓国ウォン相場

| | | | | | |
|--------|---------|--------|---|--------|----------------------|
| 予想レンジ: | USD/KRW | 1080 | ~ | 1130 | (注)100韓国ウォンあたりの対円レート |
| | KRW/JPY | 9.009 | ~ | 9.524 | |
| | JPY/KRW | 10.500 | ~ | 11.100 | |

東アジア資金部ソウル資金室 中野 博文

■ 先月の為替相場

1月のドル/ウォン相場は上昇した。4日は1,087.5ウォンでオープンし、ドル/人民元が節目の6.5を下回って大きく下落すると、ドル/ウォンも月安値1,080.3まで下落。しかしジョージア州上院選挙を控え、ややリスクオフのドル買いとなり、さらにジョージア州上院選挙で2議席とも民主党が獲得すると、大型財政支出や景気回復への思惑から米金利が上昇し、ドル買いの展開となった。7日海外時間にはトランプ大統領がスムーズな政権移行を約束したこと等あり、米国での政治的な混乱懸念が後退。市場のセンチメント回復等を受け外国人投資家による株買いが入りドル/ウォンは下落し1,090付近で推移した。第二週となる11日には米金利上昇を受け、1,093.5ウォンでオープン。その後、外国人投資家による韓国株売りもありドル/ウォンは1,101.0まで上昇した。しかし、節目の1,100ウォンの上では実需のウォン買いが優勢となり反落。13日にかけて外国人投資家による韓国株売りや米金利上昇によるドル買いは入る一方で、1,100より上では実需のウォン買いが入り上値が抑えられる展開が継続した。14日のパウエルFRB議長の講演では、雇用の最大化までは遠く、需要低迷がしばらく続くとし、テーパリングの議論は時期尚早との発言があった一方で、バイデン次期大統領による2兆ドルの追加景気対策案を受けた連邦債務の増加懸念から米金利は下げ渋り、20日に控えるバイデン大統領の就任式を前に、様子見ムードが数日続く展開となった。19日にはイエレン財務長官が自身の承認公聴会にて、大型財政支出に必要な歳入を増税ではなく連邦債務で対応する方針を指示したことで、ドル売り地合いとなったものの、ドル/ウォンについては実需のウォン買いも入り、膠着状態。20日にはバイデン大統領が就任し、15もの大統領令を署名するなどバイデン政権の運営が開始したものの、ドル/ウォンの動きは鈍く1,100台で小幅な値動きとなった。第4週に入るとワクチンの配布遅延懸念が市場で意識されたことに加え、27日のFOMCで景気見通しが引き下げられたことをきっかけにリスクオフムードとなり、ドル/ウォンは1,121.5まで上昇。結局26.7ウォン上昇した、1,118.8ウォンでクローズ。

■ 今月の見通し

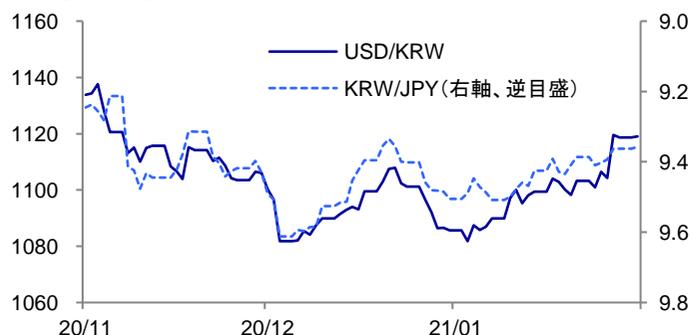
2月のドル/ウォン相場は方向感に乏しい展開を予想する。2020年9月から12月末までのドル/ウォンの主な下落要因は3つ。①ドルの過剰感がある中、COVID-19からの回復が早い中国、韓国がUSD売りの対象通貨として選好。②半導体業界の回復に伴う、韓国経常収支の大幅な回復③外国人投資家による韓国株式の購入。2021年に入り①にかかるドル安の流れは市場でテーパリング懸念が出てきたことで払しょくされつつあり、③についても外国人投資家によるフローは利益確定売りが優勢となっており、ドル/ウォンは上昇した印象だ。一方で、ドル相場全体では過度なドル安からの揺り戻しやテーパリング懸念はありつつも、ワクチン供給遅延懸念やCOVID-19の変異種による予想以上の感染拡大、米国の追加景気対策案の進捗が遅いこと等を背景に本格的なドル高にもなっておらず方向感に乏しい状況だ。さらに2020年後半は高い相関関係があったドル/人民元についても2021年1月に入ってからほぼ横ばいで推移している。よって今月のドル/ウォン上昇の主な要因は外国人投資家による韓国株式売り等のウォン固有の原因が大きいと考えられよう。2月以降のドル/ウォンは②によるウォン買いフローは相応に見込める一方で、③の外国人投資家による韓国株式は売り地合いが継続しており、ウォン売り材料となるのではなかろうか。かかる状況下、ドル/ウォンは1,100の周辺で方向感に乏しい展開となることを予想する。そのほか、ワクチンの配布計画が現在見込まれているものから大きく遅延した場合には、リスクオフのドル買い相場となり、ドル/ウォンの上昇要因となることから注意を払って臨みたい。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』
韓国で人気な家電としてノンオイルフライヤーがあります。意外かもしれませんが韓国ではKFCのようなチキン屋がいたるところにあり、韓国はチキンやポテトの揚げ物の消費がとても多いお国柄となっております(韓国内にはチキン屋が約87千店舗あるそうです。人口600人当たり1件です。いかに韓国でチキンが人気か伝わってきますね)。そんな韓国ではコロナ禍で外食が控えられる中、フライドチキンを買ってきて家で食べる人が多くいるそうです。しかし、買ったチキンはしばらくすると冷たくなって美味しくありません。もう一度揚げると脂っこくなってしまいますし。。。そんな悩みを一気に解決するのがノンオイルフライヤーです。日本でお使いになっている方もいらっしゃると思いますが、ノンオイルフライヤーとはその名の通り、オイルを使うのではなく熱蒸気を用いて食べ物を揚げたかのように調理する器具です。当然のことながら、油を用いないのでヘルシーですし、揚げ物の総菜を調理すれば余分な脂が落ちて美味しくいただくことができます。美を追求する韓国人にとっては本アイテムは必須で、韓国で売っている冷凍食品は電子レンジでの調理法の代わりにノンオイルフライヤーでの調理法が記載されているほどです。よく食べる韓国人がなぜ体系を維持できるのか不思議でしたが、こんなところで工夫をしているんですね。日本でもノンオイルフライヤーはございますので是非使ってみてください。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|-----------------|-----|---------|---------|---------|
| 1/1 | 輸入(前年比) | 12月 | -2.8% | 1.8% | -1.9% |
| 1/1 | 輸出(前年比) | 12月 | 6.3% | 12.6% | 4.1% |
| 1/1 | 貿易収支 | 12月 | \$6200m | \$6944m | \$5904m |
| 1/13 | 失業率 | 12月 | 4.1% | 4.6% | 4.1% |
| 1/15 | 政策金利発表 | | 0.5% | 0.5% | 0.5% |
| 1/26 | GDP 4Q 速報値(前年比) | 4Q | -1.6% | -1.4% | -1.1% |
| 1/27 | 消費者信頼感 | 1月 | - | 95.4 | 91.2 |
| 1/29 | 鉱工業生産(前年比) | 12月 | -0.6% | 3.4% | 0.5% |

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 27.70 ~ 28.50
TWD/JPY 3.68 ~ 3.72

東アジア資金部台北室 柴田 裕央

■ 先月の為替相場

1月のドル/台湾ドルは28.000を割りこみ、約23年半ぶりの台湾ドル高水準に。

ドル/台湾ドルは28.250でオープン。年初ではあるが、昨年からの輸出企業のドル売りが継続しており、また人民元が対ドルで上昇する中、ドル台湾ドルは下落。1/5には、外国人投資家の台湾ドル買いも入り、じりじりと下落し、28.000割れに。1/6には27.950付近まで下落したものの、米金利の上昇から米ナスダックの株先物が下落し、台湾株もつられて下落すると、ドル台湾ドルは一時28台に戻した。その後は台湾株が上昇し、最高値を更新する中、一時27.950を割る場面も見られた。

月半ばでは、米金利が上昇しているものの、輸出企業のドル売りが強く28.990付近のレンジで推移。その後も同水準での推移が続いたが、1/13には台湾加権指数が最高値を更新したこともあり、台湾ドル高が進み、一時27.938に。ただ、大口の配当金があり、外国人投資家による海外送金が増えたため、その後はレンジで推移した。

月後半に入ると、輸出企業のドル売り外国人投資家の台湾ドル買いから28.000を下回る水準で推移するが、台湾ドル高一辺倒の流れにはならず。米金利が上昇し、ドルが全面的に買われるとドル台湾ドルは取引時間中に一時28台に戻す場面も見られた。1/21は台湾加権指数が16,000ポイント台で推移し最高値を更新する中、27.950付近で推移し、翌1/22には1週間以上ぶりに27.940をつけたものの、軟調な台湾株の動きから27.980付近まで戻した。その後も高値への警戒感や、新型コロナウイルスの域内での新規感染者が発生したこと、台湾株が売られ、外国人投資家の台湾ドル売りが増加し、月末の輸出企業のドル売りを相殺し、28.000付近のレンジで推移した。

■ 今月の見通し

2月のドル/台湾ドルは台湾ドル高を見込む。

1月は28.000を割り込み、約23年半ぶりの台湾ドル高水準となった。その後、月後半には、調整の動きから株が売られ、外国人投資家の台湾ドル売りが輸出企業のドル売りを相殺し、一旦、台湾ドル高が落ち着いている。しかし、昨年の輸出額は前年比4.9%増の3,452億7,600万米ドルと過去最高額を記録し、貿易収支も拡大する中、台湾ドル買い需要は衰える様子はない。足許の輸出受注額についても、12月は前年同月比38.3%増の605億5,000万米ドルと4か月連続で単月の過去最高額を更新。引き続き台湾ドル買いが優勢な状況が続くであろう。また、2月については春節を挟むため、春節前後に急激な台湾ドル買いの圧力が強まる場面があれば、一層の台湾ドル高となる可能性もある。株価の動向も気にしつつも、どこまで台湾ドル高が進むか注視する展開となるであろう。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

台湾の国民的電化製品、「電鍋」をご紹介します。先日、台湾の国民的電化製品の「電鍋」を使った料理教室に参加しました。1960年の発売以降、60年以上一般家庭で愛用されており、日本でも台湾好きの間では以前から話題になっています。昭和レトロなたたずまいが泣けませす！そしてスイッチがたった2つの超シンプル設計！！それでいて「炊飯」「蒸し物」「煮込み」「焼き物」を重ね調理で同時進行できる超優れモノです。ちなみに私は料理教室で体験して感動のあまり、帰りの電気屋さんで即購入、翌日から素敵な電鍋ライフをスタートさせてしまいました♪

最近ハマっているお勧めの使い方をご紹介します。

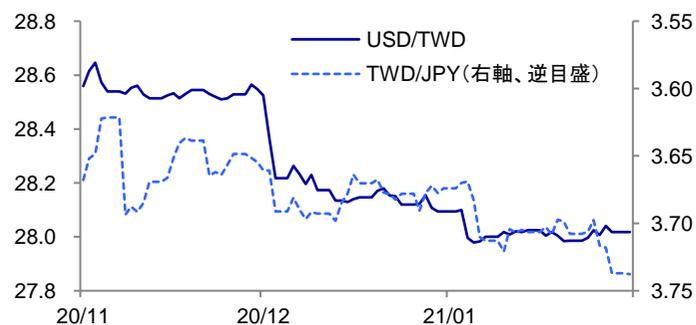
【優雅なホテル風ブレイクファスト】

- ①小さなテフロン加工ケーキ型に溶き卵を入れ、チーズをのせる(チーズオムレツ)
- ②冷凍スコーンをクッキングペーパーで包む(もちもちこんがりスコーン)
- ③マグカップにティーバッグ・水・牛乳を入れる(ロイヤルミルクティー)
- ④①②③を電鍋にセットして水を30CC鍋底に入れ、スイッチオン。約15分でホテル風ブレイクファストの出来上がり。

電気使用のため、近くで見ている必要がありません。毎朝、仕込んでスイッチ入れて放置したままシャワーを浴び、出てくるとスコーンとミルクティーの香りが立ち込めた素敵な朝ごはんが完成しています。ああ幸せ、、、。最近では日本でも購入できるようなので是非チェックしてみてください！(台北室長 小林由輝子)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|------------|-----|-------|---------|---------|
| 1/6 | 外貨準備高 | 12月 | - | 529.91B | 513.40B |
| 1/7 | CPI(前年比) | 12月 | 0.10% | 0.06% | 0.09% |
| 1/8 | 輸出(前年比) | 12月 | 10.0% | 12.0% | 12.0% |
| 1/8 | 輸入(前年比) | 12月 | 4.3% | 0.9% | 10.0% |
| 1/8 | 貿易収支 | 12月 | 4.30B | 5.76B | 5.27B |
| 1/20 | 輸出受注(前年比) | 12月 | 30.4% | 38.3% | 29.7% |
| 1/22 | 失業率 | 12月 | 3.78% | 3.76% | 3.77% |
| 1/25 | 鉱工業生産(前年比) | 12月 | 6.00% | 9.90% | 7.56% |
| 1/25 | マネーサプライM2 | 12月 | - | 8.45% | 7.60% |

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7500 ~ 7.7600
HKD/JPY 13.25 ~ 13.55

東アジア資金部 Ken Cheung

■ 先月の為替相場

【1月の香港ドル直物相場】

1月の香港ドル直物相場は、リフレ・トレードの加速を受け7.7575まで一時急落するも、7.7510台の水準に戻して推移した。米上院決選投票で事前予想に反して2議席とも民主党候補が勝利したことで、バイデン米大統領が掲げる1兆9000億ドルもの巨額の財政刺激策への実現期待が高まり、リフレ・トレードが加速。また米連邦準備制度理事会(FRB)による量的緩和政策の早期縮小観測に伴い、米10年債利回りは心理的節目とされる1%の大台を上回り、米金利の上昇と共に香港ドル相場は下落した。しかしながら、FRBのパウエル議長は「今は出口戦略の議論をするべき時ではない」と述べ、量的緩和政策の早期縮小開始との見方を否定した。香港ドル-米ドル間の金利差は維持されたものの、ストックコネクト(中国本土市場との株式相互取引制度)を通じた香港株式市場への堅調な資金流入が香港ドル高圧力となったため、香港ドル相場は下落は一時的な動きに留まり、その後は上昇基調へと転じた。今年に入ってからの香港株式市場への資金流入は2,500億香港ドルを超え、ハンセン指数は一時3万台に乗るなど、2019年4月以来の高水準となっている。香港証券取引所での大型IPO案件が報じられたこともまた、香港ドル需要を押し上げる要因となった。

【1月の香港ドル金利市場】

1月の香港ドル金利は、年末越えの資金調達需要が一服したことで、1か月物と3か月物の香港ドルHIBORはそれぞれ0.10%と0.24%まで低下した。昨年の豊富なIPOに伴う香港金融管理局(HKMA)の流動性供給により、香港ドルの流動性は引き続き潤沢な状況となっており、HKMAのアグリゲートバランスは過去最高の4,575億香港ドルを維持している。リフレ・トレードの加速にも関わらず短期ゾーンの米金利は低水準を維持しており、香港ドルHIBORと米ドルLIBORの金利差は縮小した。

■ 今月の見通し

【2月の香港ドル直物相場】

2月の香港ドル直物相場は7.75から7.76のレンジ推移を想定する。IPO需要の再燃と、ストックコネクトを通じた香港への堅調な資金流入が、引き続き香港ドル相場の支えとなる見込み。パンデミックの状況が改善する前に、FRBが量的緩和政策の早期縮小を議論する可能性は低く、米金利の上昇を背景とした香港ドルの下値追いは限定的となるだろう。つまり、香港ドル-米ドル間の金利差に着目したキャリートレードではなく、IPOや香港株に関連する資本フローが今後の香港ドル相場のメインドライバーとなると考えている。米中関係に関しては、バイデン米大統領は米国が中国企業に課している金融制裁の解除を見送るなど、トランプ前米大統領の対中強硬姿勢を維持した。予期せぬ米中間の緊張の高まりや香港自治法に基づく香港・中国当局者への制裁対象の拡大により、香港金融市場の安定性に対する懸念が増大する可能性が残る。また国境が解放されると共に香港国外への移住の動きが広がれば、人や資金の流出懸念も再燃しかねない。

【2月の香港ドル金利市場】

香港経済の下振れリスクが煽る中、HKMAは為替基金証券(EFBNs)の発行による香港ドルの流動性の吸収に消極的なスタンスを取っており、香港ドルの流動性は引き続き潤沢な状況が続き、香港ドル金利は低位で推移するだろう。更には、IPOに伴う資金需要により再び香港ドル直物相場が7.75の米ドルペッグの上限に達すれば、ペッグ制度の防衛の為、HKMAは市場への香港ドル売り(香港ドルの流動性供給)を余儀なくされる。一方で、米国からの新たな制裁や香港から国外への移住の動きが資本流出へと繋がる恐れは煽るものの、その兆候はまだ見られていない。IPOに伴い香港ドルの資金需要が高まるにしても、その影響は一時的なものに留まる可能性が高い。短期的な香港ドル金利の上昇リスクは限定的なままとなるだろう。

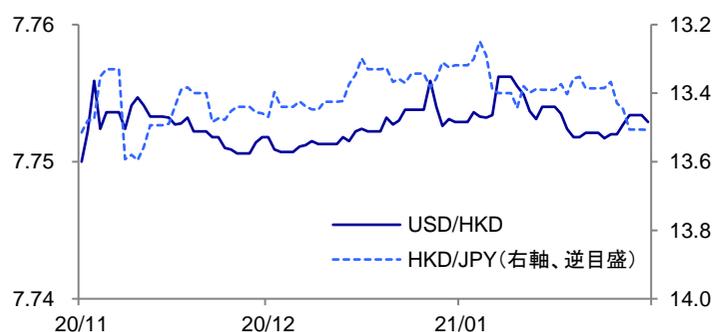
■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

コロナの影響で在宅勤務が増える中、香港の多くの人が家で過ごす時間が長くなっており、自宅で過ごす時間をより快適にする為の家電がとても人気となっています。最近では、Bluetoothのワイヤレススピーカーが大変人気です。以前はワイヤレススピーカーというと、容量も大きくかさばるものが多く、音質も非常に悪いといったものが多かったのですが、Bluetooth技術の進歩により、最近では高音質で安価な製品も増えてきています。プレゼントとしての人気も高く、つい先日のクリスマスシーズンには、一部の人気ブランドは在庫切れとなるほどでした。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|----------------|-----|--------|----------|----------|
| 1/4 | 小売売上高(価額、前年比) | 11月 | -7.40% | -4.00% | -8.70% |
| 1/6 | 日経香港PMI | 12月 | - | 43.5 | 50.1 |
| 1/7 | 外貨準備高 | 12月 | - | \$491.6b | \$485.7b |
| 1/19 | 失業率(季調済) | 12月 | 6.4% | 6.6% | 6.3% |
| 1/21 | CPI(コア、前年比) | 12月 | -0.30% | -0.70% | -0.2% |
| 1/26 | 貿易収支(HKD) | 12月 | -25.5b | -45.7b | -25.6b |
| 1/26 | 輸出(前年比) | 12月 | 8.4% | 11.7% | 5.6% |
| 1/26 | 輸入(前年比) | 12月 | 8.0% | 14.1% | 5.1% |
| 1/29 | GDP(季節調整済/前期比) | 4Q | 0.8% | - | 2.8% |

中国人民元相場

予想レンジ: USD/CNY 6.4000 ~ 6.6000
 CNY/JPY 14.85 ~ 16.41
 100JPY/CNY 6.1000 ~ 6.7400

みずほ銀行(中国)有限公司 中国為替資金部 藤山 俊文

■ 先月の為替相場

1月のUSD/CNYは月初に大幅下落した後、6.44~6.49台のレンジで推移。

4日に6.51後半で取引を開始した後、元買いフローが強まり6.45台まで大幅に下落した。5日には一時6.42台まで下げたが、その後は6.46まで下げ幅を縮小した。7日の夜間には民主党が大統領選の勝利に加えて上下両院で多数派を確保するトリプルブルーになった報道を受け、ドル買いが継続したことからUSD/CNYも6.47台まで上昇した。

11日、前週末にバイデン次期米国大統領が追加経済対策を実施するとの思惑からドル高となりUSD/CNYは6.49台まで上昇した。12日以降は下落基調となる中、13日には6.44台まで下げ幅を拡大したものの、米金利上昇によるドル高もあり6.47台まで下げ幅を縮めた。

18日は6.47台で取引を開始し、イエレン次期米財務長官によるドル安牽制発言を受けて一時6.49台後半まで上昇した。20日に米国ではバイデン大統領就任式を波乱なく通過し6.45台まで下落した。その後はPBoC仲値が元安方向設定されたこともあり6.47台まで上昇した。

25日は6.48台で取引を開始、米長期金利の低下もあり6.45台まで下落した。27日には米株安からドル買いが優勢となったことで、28日はUSD/CNYも6.49台まで上昇して取引を開始した。月末にかけては6.46台で推移している。

■ 今月の見通し

2月のUSD/CNYは上値は重いもののレンジ内での推移が継続すると予想する。

米国ではバイデン大統領が就任したが対中強硬姿勢については大きな変化はないものと考えられる。バイデン氏が現状以上の強硬措置を実施する可能性は高くなく、元安リスクは想定しづらいだろう。米国における中国企業への制限措置は強まっており、米中間の緊張から元安に動意付く可能性には留意したい。

金融政策面では、PBoCは穏健な金融政策を継続しており急転換することはないとのスタンスに変更はないと想定する。米国では大型の財政出動やワクチンの普及などによる経済回復から早期の緩和縮小論もあるが、1月のFOMCでは雇用情勢の厳しさを指摘しており長期の金融緩和を改めて強調している。引き続き中米間の金利差は元高をサポートするだろう。

USD/CNYはPBoCが仲値を元安方向に設定する動きもみられており、引き続き緩やかな元高進行が継続すると予想する。2月11~17日には春節による休暇を控えており、春節明けの相場のギャップオープンには警戒が必要だろう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

今回のお題は難しいですね
 中国特有の家電ではないかもしれませんが

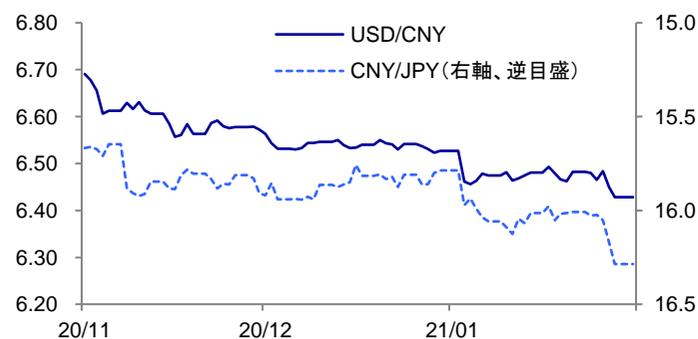
『电炖锅(dian dun guo)』

という小さめの鍋が中国では使われているようです。直訳すると電気鍋とも言えるのでしょうか。炊飯器などよりは小さくて消費電力も少ないみたいです。淘宝というネットショッピングのサイトで調べてみると200元ぐらいで手に入るのでもお手頃な家電です。

用途はお粥を炊いたりスープを作ったりする時に使います。意外と日本では見かけないかなあと思いました。一人暮らしの人などにとっては、とても便利かもしれないですね！

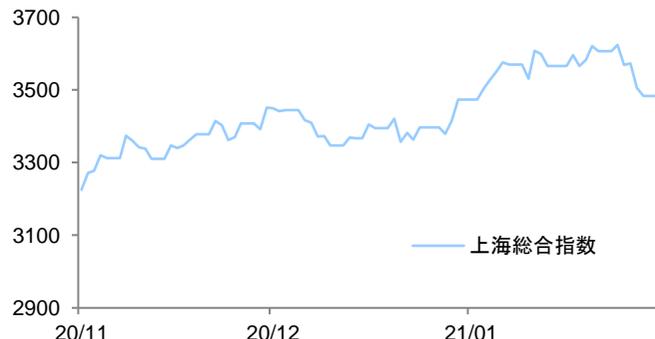
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|-------------------|-----|----------|----------|----------|
| 1/6 | 財新・サービス業PMI | 12月 | 57.9 | 56.3 | 57.8 |
| 1/11 | PPI(前年比) | 12月 | -0.7% | -0.4% | -1.5% |
| 1/11 | CPI(前年比) | 12月 | 0.0% | 0.2% | -0.5% |
| 1/14 | 貿易収支 | 12月 | \$72.00b | \$78.17b | \$75.50b |
| 1/18 | GDP(前年比) | 4Q | 6.2% | 6.5% | 4.9% |
| 1/18 | 鉱工業生産(前年比) | 12月 | 6.9% | 7.3% | 7.0% |
| 1/18 | 小売売上高(前年比) | 12月 | 5.5% | 4.6% | 5.0% |
| 1/18 | 都市固定資産投資(年初来/前年比) | 12月 | 3.2% | 2.9% | 2.6% |
| 1/20 | LPR1年物 | - | 3.85% | 3.85% | 3.85% |
| 1/20 | LPR5年物 | - | 4.65% | 4.65% | 4.65% |

シンガポールドル相場

予想レンジ: USD/SGD 1.3100 ~ 1.3400
SGD/JPY 77.50 ~ 79.00

アジア・オセアニア資金部 成田 隼基

■ 先月の為替相場

2021年1月のシンガポールドル(SGD)相場は、SGD安が進行。

月初のSGDは堅調に推移。新型コロナウイルスのワクチン実用化へ向けた具体的な動きや景気回復期待を受けて、MSCI新興国通貨指数はおよそ3年ぶりに高値を更新し、SGDのみならずアジア通貨は総じて堅調推移となった。6日時点のUSD/SGDは1.31台前半までSGD高が進行。

しかしその後は、米金利上昇に伴いUSD買いが優勢となるなか、SGDは反落する展開。米長期金利が1%台での推移となり、アジア通貨はほぼ全面安。11日にかけてUSD/SGDは1.33台前半の水準までSGD安が進行した。

12日には米金利の上昇が一服、USDの反落を背景にSGDは底堅い推移となった。また、米国のバイデン大統領による追加経済対策の公表を控え、徐々に市場はリスクオン地合いとなり、SGDは上昇。14日、USD/SGDは1.32台前半の水準での推移となった。しかし、15日発表の軟調な経済指標の結果や米株安を背景にリスクオフムードが台頭し、SGDは反落。19日株価の反発を背景にアジア通貨は底堅い推移となり、21日にかけて続いた株高や米国での大規模な景気刺激策への期待感から再びリスクオン相場となったが、USD/SGDの下落は1.32台前半の水準に留まった。

その後、月末にかけてSGDは軟調に推移。26、27日に行われた米FOMCでは政策金利の据え置きと量的緩和の維持を決定。新型コロナウイルス感染拡大で引き起こされた景気後退から完全に回復するまでの期間、景気支援策を継続すると改めて表明。しかし、経済の回復ペースの鈍さからUSD買いが優勢となる中、SGDは弱含みに推移。一時1.31台前半の水準までSGD高が進行していたUSD/SGDは現在、1.33台前半の水準で推移している(1月28日現在)。

■ 今月の見通し

2021年2月のSGD相場は、SGD高の進行を予想。

1月のUSD/SGDは、月初に一時1.31台前半までSGD買いが進行も、月末にかけてSGD安が進行する展開となった。昨年末より続いていた、欧米発のポジティブなニュースや新型コロナウイルス対策のワクチン開発期待を受けたリスクオンムードを受けて、株価やアジア通貨の上昇が続いていたが、一旦調整が入った格好となった。しかし、全体的な方向感としては、シンガポール経済の堅調さからして、SGD高が進行するとの見通しを維持したい。

現在、シンガポールはアジア・オセアニア域内の中でも特に新型コロナウイルスの感染拡大抑制に成功しており、経済指標につき、雇用こそ弱い(失業率が3%台で推移)、他主要経済指標は軒並み強い結果を示しており、新型コロナウイルスパンデミック後のマイナス影響が徐々に改善しつつある状況にある。

また、新型コロナウイルスパンデミック後の経済活動再開フェーズをPhase2から3へと一段階引き上げており、今後より一層のサービス業分野に対する好影響が期待される(経済活動緩和方向)。

コロナウイルス対策の要となるワクチン接種も具体的に開始されており、政府声明では、2021年第3四半期までにシンガポールの全国民に十分なワクチンを供給できるとのメッセージにつき、蓋然性が高まっている。

掛かる状況下、本年のシンガポール経済見通しは、新型コロナウイルスのパンデミックにより非常に厳しい打撃を受けた昨年とは対照的なものになると予想。足元のSGDは各種通貨に対し、堅調推移となろう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

当地は、北緯1度の赤道直下にあり、年間湿度は84%の高温多湿地域です。実際の体感も、朝晩は過ごし易いな、と思う日も結構あり、日本の真夏のように纏わりつく蒸し暑さとはやや違いますが、湿度が高いな、というのは至る所で経験します。

そんな環境下、お勧めの家電は除湿機です。

南国特有の突然の豪雨や強風がある事から、基本的に洗濯物をベランダなどに干すのは不向きですし、危険です。

かと言って、乾燥機をガンガン回しても、室内の湿度が一層上昇するので、冷房の除湿機能との戦いになります。

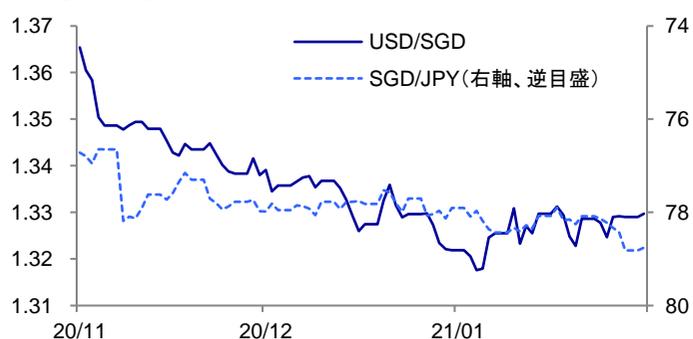
当地に来てから購入した除湿機は、やはりそういった事を想定してか、洗濯物乾燥モードや急速除湿モード(主にシャワー後の浴室乾燥として使ってます)などがあり、常にフル活用しています。回収した水分を貯めるタンクがあり、恐らく4リットル近く貯水可能なのですが、気が付けば既に満タンになっている、という事もしばしば。

ほぼ、四六時中使っていたせいか、使用開始から約1年半余り経ったここ最近、除湿機から不穏な機械音が聞こえ始めております。まだ、しばらく大丈夫そうですが、せっかく旧正月のセールシーズンにも差し掛かっているので、後継を見据えた二代目の購入を検討中です。

(アジア・オセアニア資金部 福田)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|--------------|-----|-------|-------|-------|
| 1/4 | GDP速報値 | 4Q | -4.7% | -3.8% | -5.6% |
| 1/4 | 購買部景気指数 | 12月 | - | 50.5 | 50.4 |
| 1/5 | 小売売上高(前年比) | 11月 | -8.1% | -1.9% | -8.5% |
| 1/18 | 非石油地場輸出(前年比) | 12月 | -0.7% | 6.8% | -5.0% |
| 1/25 | CPI(前年比) | 12月 | -0.1% | 0.0% | -0.1% |
| 1/26 | 鋳工業生産(前年比) | 12月 | 12.0% | 14.3% | 18.7% |

タイバーツ相場

予想レンジ: USD/THB 29.80 ~ 30.20
THB/JPY 3.40 ~ 3.50

アジア・オセアニア資金部 バンコック室 鈴木 一勲

■ 先月の為替相場

ドルバーツは30.00近辺で2021年を迎えた。注目されていた5日の米上院議員選挙ジョージア州決戦投票は民主党が勝利を治め、大統領選、米上下院3つを民主党が制し、政策運営が柔軟になる等の期待からリスクオンのドル安に。29.80-30.00で推移したが、バンコク近郊を中心にタイ国内に拡がっている新型コロナ感染第2波の影響もあり、2020年12月の安値をサポートラインとして底堅い動きが続く。8日には米12月雇用統計が予想比悪化したことで米の大型財政出動期待が高まり、米金利の上昇と共に30.10近辺へ。

中旬は米長期金利の上昇に伴い、30.20近辺まで上昇するも、米10年債入札で需要が確認されると米長期金利が大きく下げ、これを受けてドルバーツは29.90台へと足早に下落。14日、次期米バイデン政権による約1.9兆ドル規模の経済対策案が報じられたが、大方事前報道の範疇ということもあり、反応は限定的。15日、タイ中銀がタイ国内のコロナ感染第2波による影響で2021年のGDP成長見通しを引き下げるとの必要があるとコメント。加えて同日海外時間でも前月比マイナスに転じた米12月小売売上高や米株の下落等リスクオフのなかで再び30.10台へ上昇。19日にはドル高が落ち着きを見せ、タイ政府が推定3千万人が恩恵を受ける総額2千億バーツ超の給付案を承認したため、30.00近辺で推移。

下旬、21日にはバンコク都を対象に一部営業制限の緩和を発表。また、タイ政府がアストラゼネカ製ワクチンを承認とのヘッドラインが流れたが、29.90台で小動き。その後は、米で民主党が掲げる約1.9兆ドル規模の経済対策が野党の協力を得られず縮小するのではないかと懸念から30バーツに届くも、月末週にはFOMCを控えていたため、結果が発表される27日夜間まで29.90台中心の動き。FOMCでは金融政策の現状維持が決定されたが、米経済見通しに対する懸念を深めるメッセージが発信されたため、リスクオフムードの高まりと共に30バーツ台に水準を切り上げて月末を迎えようとしている。

■ 今月の見通し

米バイデン大統領の就任式を無難に通過し、足許では米長期金利の上昇に落ち着きが見られたことや、米株が月末にかけ不安定な動きになりながらも過去最高値圏をキープしていることもあり、1月のドルバーツは30.00を中心に推移した。

現在は、12月中旬のバンコク西郊に端を発するタイ国内を襲った感染第2波もタイ政府の素早い対応によって、新規感染者数には鈍化の傾向が見られ、営業を再開できる業種も段階的に開示される等、再び経済活動正常化に向けた動きがタイにおいて確認されている。そのため、昨年末から1月中旬にかけて漂ったタイ国内の感染拡大への警戒感が薄まるにつれ、経常収支黒字かつGDP対比の公的債務比率も比較的低いタイを投資対象としたフローが再び強まるという可能性が考えられる。しかし、タイ国内の家計部門に目を向けると、2021年には貧困層が新型コロナが原因で約150万人増加して500万人を超えるとの予想や、高水準にある家計債務残高が内需の伸びを押さえる要因となるため、ドル安による一方的な下値トライにはならず、昨年12月の直近安値である29.70半ばを下抜けることはないだろう。

一方のドル高バーツ安サイドへの動きに対しては、イエレン新財務長官が歴史的に低金利を背景に積極的な財政出動に出るほうが米経済にとって恩恵が大きいと米上院の指名承認公聴会で発言しているほか、米金融緩和スタンスの継続や米株の高値圏キープが市場参加者の楽観論をサポートする要因となり、ドルバーツの上値が重いと予想。そのため、1月に引き続き2月も29.90から30.10をコアとしたレンジ相場になると考える。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

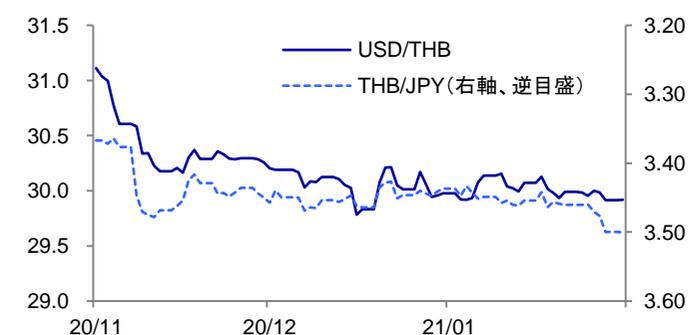
タイで人気のデジタル小物といえば、「スマート」と頭につく、スマートフォン、スマートウォッチ、スマートスピーカーではないでしょうか。特にスマートウォッチはお馴染みロゴの米国の超有名企業の製品をはじめ、さまざまなメーカーからここ1-2年くらいで多くのモデルが発売されたように感じており、最近バンコクの街中でも見かける頻度がグッと高まりました。もともとタイの人々はスマートフォンが大好きで1日6時間以上も見ていると言われており、アプリを使ってスマホとリンクさせることができるスマートウォッチは人気になりやすかったのだと思います。

おしゃれに敏感なタイの人々がそれぞれ持っているスマートウォッチのベルトを工夫してファッション感覚で身に付けているため、タイの人々の若年層を中心にもっともっと普及していくのではないのでしょうか。見た目はもちろん、機能もスマートで睡眠を点数化してくれる機能に関する話題でお客さまと盛り上がることもあるようで、スマートウォッチを身に付けることが生活の一部になっている印象です。

私も昨年8月に米の某企業が販売しているスマートウォッチを購入したのは良いのですが、買って満足するタイプで使ったのは数える程度。今年はきちんと活用してタイの人々とスマートな会話が出来るスマートな男になりたいと思います。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|---------------|-----|--------|---------|--------|
| 1/5 | CPI(前年比) | 12月 | -0.39% | -0.27% | -0.41% |
| 1/5 | CPI Core(前年比) | 12月 | 0.04% | 0.15% | -0.04% |
| 1/7 | 消費者信頼感指数 | 12月 | -- | 50.1 | 52.4 |
| 1/22 | 貿易収支(通関ベース) | 12月 | \$568M | \$964M | \$53M |
| 1/22 | 輸出(通関ベース/前年比) | 12月 | -1.35% | 4.71% | -3.65% |
| 1/22 | 輸入(通関ベース/前年比) | 12月 | -0.60% | 3.62% | -0.99% |
| 1/25 | 自動車販売台数 | 12月 | - | 104,089 | 79,177 |

マレーシアリング相場

予想レンジ: USD/MYR 4.0000 ~ 4.1000
 MYR/JPY 25.32 ~ 25.97
 JPY/MYR 3.8500 ~ 3.9500

マレーシアみずほ銀行 内田 暉

■ 先月の為替相場

21年のUSD/MYRは、年明け早々節目の4.0を割り込む波乱の幕開け。その後も新型コロナの蔓延を機に13日に活動制限令(MCO)の再発動、18日に約52年ぶりの緊急事態宣言発令と立て続けに国内発ニュースが発表された他、米大統領選や原油価格上昇等の外部要因も重なり、3.994-4.072と振れ幅の大きい月となった。

上旬は、年初高値スタート。薄商いのマーケット環境も手伝い、一時3.994と節目の4.0を突した。その後も5日のOPECプラス会合でサウジアラビアの自主減産が報道されるなど原油相場の堅調に支えられるなど高値圏でのみ合いとなった。

8日の米雇用統計で非農業部門雇用者数が8か月ぶりに減少に転じた。新型コロナによる経済的悪影響が意識され、リスク回避のドル買い/新興国通貨売りとなり、週明け11日は4.035のギャップアップスタート。その後も米長期金利が1%を突破して上昇したことや、13日より2週間に渡り実施されることとなったMCO、18日の緊急事態宣言など国内で強気の材料は見つからず、中旬にかけてリングgit相場は軟調に推移。12日には約1か月ぶりに4.07を突破した。

下旬は20日にマレーシア中銀による政策金利発表があり、1.75%の据え置きが決定された。市場では、MCO再発動を受けて利下げムードが漂っていた為、発表後リングgitは買い戻され4.03割れの水準まで上昇。尚、中銀ステートメントでは、「金融政策は適切に緩和的であり、パンデミックによる不確実性を踏まえ、新たなデータと情報により決定する」とし、次回3月での金利下げ余地を残した格好。

月末にかけては1/28のFOMCではほぼ無反応であったが、1/26のIMF世界経済成長率見通しで21年度の米国成長見通しが+5.1%(10月比+2.0%)と大幅に引き上げられた一方、アセアン各国が軒並み下方修正となったことでリングgit相場にも逆風となった。29日に発表されたマレーシア12月貿易統計は、堅調な輸出を継続確認しリングgitも買い戻されUSD/MYRは4.04でのクローズとなった。

■ 今月の見通し

今月のUSD/MYRは1月対比でややリングgit安の水準を見込んでいる。先月はMCO再発動の他、約52年ぶりの緊急事態宣言発令に加え、当該発令を巡るムヒディン首相への政権批判など、原油相場が堅調に推移するなど一部の支援材料はあったが、リングgitには総じて逆風となった。一方、ムヒディン首相の進言を受け入れ、アブドゥラ国王が緊急事態宣言を発令したことにより、前倒しで宣言解除とならない限りは8/1迄総選挙開催も事実上回避した格好。政局に端を発するリングgit安進行は予想しづらい。

ドル相場は、パウエル議長が引き続き緩和策の維持を表明している状況下、昨年来より続くグローバルなドル安地合は今後も暫く続くと思われ、ドル売りに伴うリングgitの売られにくさを確認する月となるだろう。

また、2月は中国の旧正月も控えており、元相場も大きな波乱は想定しづらい。原油相場についても、次回のOPECプラス会合は3月開催予定と材料が乏しい。新型コロナワクチンの世界的な供給時期の遅れ懸念もあり、買い材料にも乏しく、様子見相場が見込まれる。

今月のリングgit相場に影響のある国内イベントは、2/4に一旦の期限を迎えるMCOに対する今後の対応くらいだ。MCO下でも新規感染者数の過去最高値を更新する状況下、政府は難しい決断を下すことになる。条件付活動制限令(CMCO)への移行が有力シナリオとなりつつあるが、新規感染者数が最高値を更新する状況下、万一にも経済活動を厳しく抑制する決断がされた場合、リングgit相場には逆風となると見込む。その他、政局動向はかなり限定的と予想されており、外部要因でも人民元相場、原油相場に大きな動きは見られない。

以上により、今月のリングgit相場に関しては、ドル長期金利上昇に伴うドル買い/新興国売りの可能性を除けば、月初のMCOにかかる発表を除けば材料も少ないため、方向感に乏しい相場となり、USD/MYRで言うと、4.05を挟んでもみ合いを予想する。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

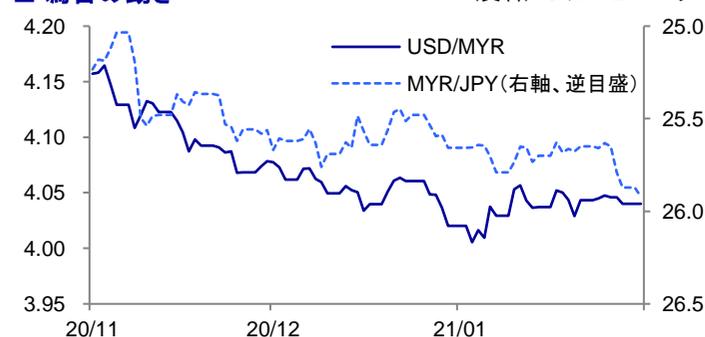
当地に赴任して最初に驚いたのは、シーリングファンである。日本であれば、付いていたとしてもリビングに一つだと思うが、当地では基本的に部屋毎についているのだ。赴任前までは常夏の国でもあり、エアコン年中フル稼働と想像していた。実際来てみると、人によってバラツキはあるが、小生の場合、このシーリングファンで十分快適に過ごせるのだ。日本の夏に比べると、湿度の関係もあるだろうが、そこまで暑さを感じないのも驚いた点。このシーリングファン、回転スピードやタイマー設定も可能であり、就寝前は、タイマー設定の上スピードを遅くする。洗濯物を乾かす際は、スピードを上げて使うと、生乾き臭対策にもなるなど、実に便利。

もう一つ海外あるあるだが、飲料水事情だ。豊富な水で有名なマレーシアであっても、水道水をそのまま飲むのは勇気がいる。だからといってわざわざ買い出しに出るのも購入後の運搬が大変だ。そこで活躍してくれるのが、ウォーターサーバー。当地でもやはり人気である。日系営業課XX氏にインタビューしてみると、XX氏は何とも二台持ち。ウォーターサーバーをこよなく愛しており、一台は本人専用として、洗顔からお酒の水割り用まで多用途。もう一台も日々の料理用などでフル活躍。しかも安心の3か月毎定期メンテナンス付。手放せない理由がよく分かる。

最後に、最早家電製品でも何でもないが、水繋がりでご紹介する。トイレの横に付いているシャワーだ。勿論、体を洗う用途ではなく温水は出ない。小さい子供にとって、絶妙な位置に設置されており実に便利だろうが、親御さんにとって厄介だ。水をぶちまけるリスクもそうだが、手頃なサイズのヘッドをお口に持っていけないか、常にヒヤヒヤなのだ。(内田)

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーク

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|-----------------------|--------|--------|----------|----------|
| 1/8 | Foreign Reserves | 31-Dec | | \$107.6B | \$105.7B |
| 1/9 | Industrial Production | NOV | 0.1% | -2.2% | -0.5% |
| 1/20 | BNM OPR Decision | JAN | 1.50% | 1.75% | 1.75% |
| 1/20 | CPI | DEC | -1.3% | -1.4% | -1.7% |
| 1/20 | Foreign Reserves | 15-Jan | | \$107.8B | \$107.6B |
| 1/29 | Exports | DEC | 3.60% | 10.80% | 4.60% |
| 1/29 | Imports | DEC | -6.70% | 1.60% | -9.00% |
| 1/29 | Trade Balance, MYR | DEC | 20.4B | 20.7B | 17.0B |

インドネシアルピア相場

予想レンジ: USD/IDR 13800 ~ 14300
 IDR/JPY 0.72 ~ 0.76
 JPY/IDR 131.58 ~ 138.89

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

アジア・オセアニア資金部 田才 雄

■ 先月の為替相場

1月のドルルピアは、引き続き安定した推移となった。ドルルピアは年初14000を割り込んで13900台でスタート。新型コロナウイルスのワクチン接種進展への期待感を背景に、昨年未からのリスク選好姿勢を引き継ぎ、一時13800台後半までルピアは強含んだ。その後も、13900台を中心とした値動きが続いたが、8日には米金利が上昇したことや、新型コロナウイルスの感染者数が特に多いジャワ島とバリ島を中心に規制の強化に踏み切ったことを受けて、ドルルピアは再び14000台へのせた。翌週、11日もこの流れは止まらず、リスク回避姿勢の強まりを受けて、12日には一時14200台前半までルピアは下落した。しかし、14日にはインドネシア議会の法律制定評議会が中央銀行法改正計画の棚上げしており、中銀の独立性は守られた格好となり、翌15日に発表されたインドネシアの通年での貿易収支は、2011年以来の高水準となる217億ドルの黒字を記録したを受け、ドルルピアは14000台前半までルピアが値を回復した。

月後半に入ると、21日にインドネシア中銀政策決定会合を控えてルピアは次第に動意を欠く展開に。迎えた21日、インドネシア中銀は政策金利である7日物リバースレポレートを3.75%の据え置きとした。ペリー総裁はオンライン会見で「今後も景気回復を支えるため、あらゆる政策措置を講じる」と述べたが、市場予想通りの結果に、会合は無風で通過。その後は、月末に向けたインドネシア国内企業のドル買いフローの中でも、ルピアが底堅く推移。ドルルピアは14000台を中心とした動きが継続した。(28日終値時点)

■ 今月の見通し

2月のドルルピアは、引き続きルピアが底堅く推移することを予想したい。インドネシアのコロナ感染状況は、既述の通り、1月も厳しさを増した格好だ。遂に国内の累計感染者数が100万人を突破し、東南アジアで最悪の状況となっている。国内経済への打撃は今後も続くものと思われる。かかる中でも、ルピアは強さを維持しており、対ドルで確りとした推移となっている。やはり背景には、金融緩和により米金利が低水準で推移し、投資家の資金が新興国へ流れ込み易いことと、大きな貿易黒字により、インドネシアの慢性的な経常赤字が黒字化、乃至は赤字額が相当に減少していることが要因だろう。世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっている中、米利上げはまだ相当に先のことであり、新興国への資金流入は続くと思われる。貿易収支についても、インドネシア国内のコロナウイルス感染状況を鑑みれば、輸入の回復には時間がかかると思われ、黒字の積み上げは続くだろう。ルピア買い需要を支える要因がすぐには変化しにくい状況下、ルピアの安定推移は続きそうである。

現状のルピアの水準を鑑みればインドネシア中銀による追加利下げの可能性は薄い。利下げとなれば一時的にルピア安へ振れると想定されるが、投資家のリスクセンチメントが強い状況であれば、下落も一時的なものに留まると思われる。

リスクシナリオとしては、各国で発生しているコロナウイルスの変異種にワクチンが有効ではないタイプが発生し、感染拡大となる等、投資家心理を急速に悪化させる事象に注意が必要だ。投資家心理の悪化をきっかけに堅調だったルピア相場が巻き戻すことには引き続き留意したい。

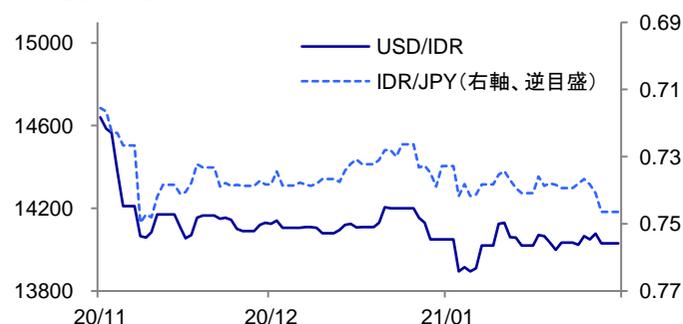
今月のドルルピアは、引き続き安定した推移を予想する。

■ 今月のつぶやき(現地からの声)

大変恐縮なのですが、諸般の事情により、暫くの間休載とさせていただきます。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

(資料) ブルームバーグ

| 発表日 | イベント | 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|------|------------------|-----|---------|--------|---------|
| 1/4 | CPI(前年同月比) | 12月 | 1.61% | 1.68% | 1.59% |
| 1/8 | 外貨準備高 | 12月 | - | 135.9 | 133.6 |
| 1/15 | 貿易収支(USD M) | 12月 | 2473 | 2101 | 2613 |
| 1/15 | 輸出(前年比) | 12月 | 6.20% | 14.63% | 9.43% |
| 1/15 | 輸入(前年比) | 12月 | -12.96% | -0.47% | -17.44% |
| 1/21 | BI 7daysリバースレポ金利 | - | 3.75% | 3.75% | 3.75% |

フィリピンペソ相場

予想レンジ: USD/PHP 47.80 ~ 48.60
 PHP/JPY 2.145 ~ 2.175

■ 先月の為替相場

年明け(4日)のドルペソ為替相場はリスクオン地合でアジア通貨が対ドルで強含み。

ドルペソ為替相場にも同様にペソ高圧力が掛かり、1米ドル=48.02ペソで出合った後、12月月初からサポートされている1米ドル=48ペソ丁度をブレイクしに行く動きに。

しかしながらペソの高値は1米ドル=48.015ペソまで(これが1月のペソ高値)。引き続き根強いドル買いフローがみられ、1米ドル=48ペソ割れが死守されると新型コロナウイルス変異種の感染拡大懸念や米ジョージア州上院2議席の決選投票を控えてドルは買い戻された。

米政局が「トリプルブルー」となり米金利が上昇すると、ペソ高圧力の緩和で8日には1米ドル=48.12ペソで取引された。

米12月雇用統計を受けてドルインデックスは上昇したものの、ドルペソ為替相場への影響は限定的に。

FRBパウエル議長の『超緩和的な金融政策の出口について話す時期ではない』、『インフレに関する兆候がない限り利上げはしない、利上げの時期は近くない』、『テーパリング(量的緩和の縮小)は十分な準備と事前の予告のもと行う』といったハト派発言がドルの上値を抑えた。

バイデン米新大統領政権下で財務長官に指名された前FRB議長のイエレン氏は公聴会で「経済的な利点の為にドル安を追求しない」と述べる一方、「ドルの価値は市場によって決められるべき」と発言、コロナ禍で進んだドル安に警戒感を示すとみていた市場参加者にとってはドル売りに安心感が出た。

加えて堅調に推移する米株式市場に20日のドルペソ為替市場では、いよいよ1米ドル=47ペソ台へ突入か、という雰囲気もあったが、1米ドル=48.03ペソで止められた。

その後、膠着相場となり、月末にかけてはリスクオフムードが強まるとドルが買い戻され、28日に1米ドル=48.145ペソで一時取引されたがドルの上値も重く、1米ドル=48.10ペソを挟んでの取引で48.15が月中のドル高値となりそう。(29日10時現在)

■ 今月の見通し

COVID19ワクチンの実用化と先進国で進む接種により、市場はアフターコロナを織り込みにいく動き。テーパリングという言葉が目立つようになり、ドル安への警戒感も強まっている。

コロナ禍の超金融緩和で上昇した世界の株式市場は調整局面に入るので、

フィリピン株式指数はリスクオフムードの強まりで終値ベースで11月27日以来となる7000ポイントを割り込んだ。米株式相場が崩れればペソ安バイアスに留意する必要があると予想。

先月発表された経済指標にはペソ高圧力の緩和、ペソ安を示唆するものが多い。

①比11月海外在留フィリピン人労働者(OFW)送金は前年同月比で+0.3%となり、市場予想の+3.5%から大きく乖離した。昨年のOFW送金金額は11月までで前年度対比で▲0.8%に。

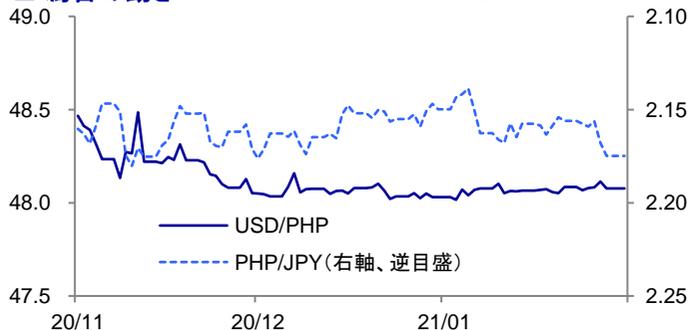
②比12月貿易収支は21.8億ドルの赤字に。赤字幅は先月の17.3億ドルの赤字、市場予想の17.1億ドルから拡大。要因としては電子製品の輸入が増えたこと。コロナ禍での経済の立ち上がりで今後どの程度輸入が増えるか注目される。

③比第4四半期GDP成長率は市場予想前年比▲7.9%から更に悪化して同▲8.3%に。これで2020年のGDP成長率は前年比▲9.5%、統計開始の1946年以降で最悪を記録。無論、第3四半期の前年比▲11.4%と比べたら改善している。

とはいえ、アフターコロナを織り込みにいく相場は短期的な調整に過ぎず、中長期的に米国の超金融緩和が当局からコミットされている以上、コロナ前の需要環境に戻るといった議論によるドル高ペソ安予想は時期尚早と考える。

■ 為替の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーグ



■ 先月の注目イベント

発表日 イベント
 上記参照

(資料) ブルームバーグ

期間 予想 結果 前回

インドルピー相場

予想レンジ: USD/INR 72.00 ~ 75.00
INR/JPY 1.39 ~ 1.45

アジア・オセアニア資金部 インド室 田川 順也

■ 先月の為替相場

【1月の米ドル/インドルピーは上に往って来いの展開】

1月1日も営業日であるムンバイ市場においてドル/ルピーは73.08で2021年取引をスタート。流動性の薄いまま4日には人民元が対ドルで大幅に上昇するとアジア通貨が全般的に上昇し一時73.00の大台を割り込むも72台での推移は短時間。イランと米国間の地政学リスクの高まりからドル選好が強まる中、7日にはインド当局から大口の為替介入(ドル買い/ルピー売り)が入り、74ミドルまで上伸。

2週目に入ると米国での景気刺激策期待から米金利が急上昇。これに合わせてドルインデックスが3週間ぶりの高値圏となるとドル/ルピーも当月の高値となる73.505を11日に示現。ただしその後はFRB高官が金融緩和策について今後も緩和的であり続ける旨を述べると米金利上昇も一服、ドル高も勢いを失うとドル/ルピーも天井をつけて反転。14日・15日と73.00を一時割り込むが、インド当局から為替介入がしっかりと入ったことから下値追いつきはならず。

3週目に入ると米イエレン財務長官が景気刺激策のため、財政支出拡大を支持したことからドルが全般的に下落する中、再度73.00を下抜け。最終週も安値圏での推移となり、27日には当月の安値となる72.78を示現。28日執筆時点で73.04レベルで取引されている。

■ 今月の見通し

【2月の米ドル/インドルピーは安値圏での推移を想定】

1月のドル/ルピーは前月までと基本的な材料は同じで11-12月と180億ドルの海外から資金流入となったインド株式市場は1月もIndian Railway Finance CorpやIndigo Paintsの新株発行などを背景に30億ドルを超える流入、ドル売り/ルピー買いを想起させた。一方で73.00を割り込むと当局からドル買い/ルピー売りの為替介入がしっかりと入ることから、トレーダーの心理としては同水準からドルショートポジションの構築ができず、下落モメンタムの構築に至っていない。1/27につけた72.78はチャート上では昨年9月以来のドル安水準であるが、そこから一段のドル安に賭ける向きは少なく、むしろ為替介入期待から73へ戻っていくと見る向きが強い。このことから先月と本欄と同じく上下ともに方向感のつかみづらい展開となっているし、2月もこの状況は続くように思われる。

唯一先月と変わったことはドル側の要因で、ドルインデックスを見るとコロナショックからリスク回避の動きが強まり、ドルに資金が集中した昨年3月を頂点に、その後は緩やかにしかし継続的に続いてきたドル安の動きが1月は底打ちを見せている。予断を許さない状況が続いているとはいえ、1月月初に40万人を超えていた全米日次感染者数が直近では10万人台での推移となっており、今後ワクチン接種が進むことが確認されれば、コロナで売られた分の揺り戻しが米ドルに出てもおかしくはないだろう。

■ 今月のつづやき(現地からの声)

『当地で人気・便利な家電やデジタル小物』

パンデミック前のお話となりますが、ドライブやアウトドアで小型のBluetoothスピーカーを利用するインド人を多く見かけました。値段は300ルピー(500円弱)のものから高品質のものまで売られています。ダラムサラ郊外のトリムンドと呼ばれる、往復6時間ほど初心者には少し過酷なトレッキングスポットがあります。そちらを訪れた際、通り過ぎていくインド人の若者の多くがスピーカーをリュックにつるし大音量でボリウッド映画のサウンドトラックを響き渡らせていました。当然(?)大音量に文句をつける人などおらず、スピーカー装備でない我々一行はも黙々と歩みを続けたのでした。ダラムサラはこのトリムンドでのトレッキングそして、ダライ・ラマ公邸ほかチベット僧の巡礼路巡りは絶景が拝め、とても中身の濃い旅になるかと思えます。いつかまた再訪したい場所の一つです。話題から逸れてしまい申し訳ありません。(バンガロール 長谷川)

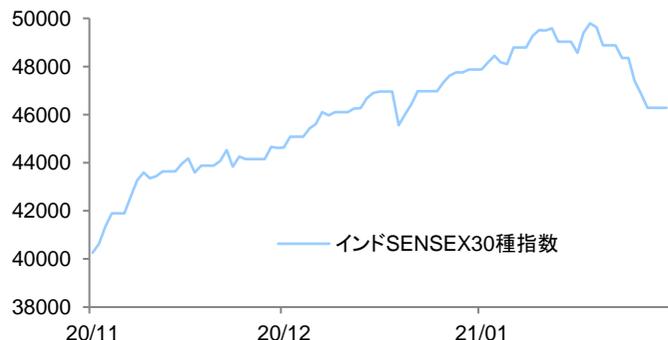
■ 為替の動き

(資料) ブルームバーク



■ 株価指数の動き

(資料) ブルームバーク



■ 先月の注目イベント

| 発表日 | イベント |
|------|--------|
| 1/4 | 製造業PMI |
| 1/12 | CPI |
| 1/12 | 鉱工業生産 |
| 1/15 | 貿易収支 |

(資料) ブルームバーク

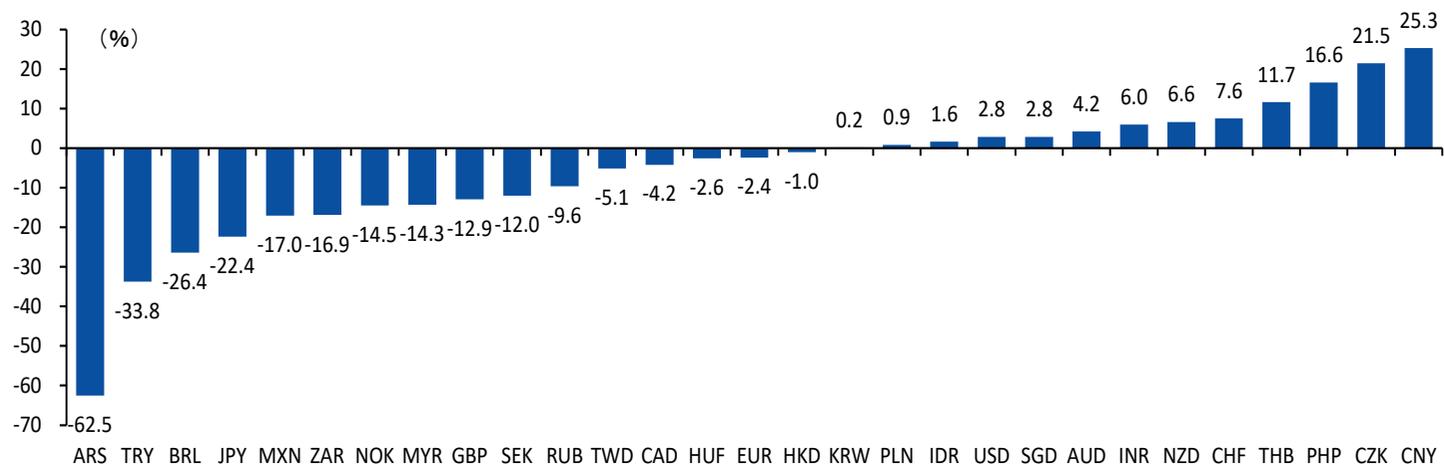
| 期間 | 予想 | 結果 | 前回 |
|-----|---------|---------|--------|
| 12月 | - | 56.4 | 56.3 |
| 12月 | 5.00% | 4.59% | 6.93% |
| 11月 | -1.0% | -1.9% | 4.2% |
| 12月 | -157億ドル | -154億ドル | -99億ドル |

■ 為替市場・株式市場騰落率

| | 為替市場 | 2020年末 | 2021年1月末 | 騰落率 | 株式市場 | 2020年末 | 2021年1月末 | 騰落率 | USD換算 |
|------------------|---------|---------|----------|-------|---------------|----------|----------|-------|-------|
| 先進国 | | | | | | | | | |
| 米国 | - | - | - | - | NYダウ平均 | 30606.48 | 29982.62 | -2.0% | - |
| 日本 | USD/JPY | 103.25 | 104.68 | 1.4% | 日経平均株価 | 27444.17 | 27663.39 | 0.8% | -0.6% |
| ユーロ圏 | EUR/USD | 1.2216 | 1.2136 | -0.7% | ドイツDAX指数 | 13718.78 | 13432.87 | -2.1% | -2.1% |
| 英国 | GBP/USD | 1.367 | 1.3708 | 0.3% | ロンドンFTSE100指数 | 6460.52 | 6407.46 | -0.8% | -1.1% |
| 豪州 | AUD/USD | 0.7694 | 0.7644 | -0.6% | S&P/ASX200指数 | 6587.096 | 6607.357 | 0.3% | 1.0% |
| カナダ | USD/CAD | 1.2725 | 1.2777 | 0.4% | S&Pロント総合指数 | 17433.36 | 17337.03 | -0.6% | -1.0% |
| エマーシングアジア | | | | | | | | | |
| 中国 | USD/CNY | 6.5272 | 6.4283 | -1.5% | 上海総合 | 3473.069 | 3483.069 | 0.3% | 1.8% |
| 香港 | USD/HKD | 7.7531 | 7.7534 | 0.0% | 香港ハンセン | 27231.13 | 28283.71 | 3.9% | 3.9% |
| インド | USD/INR | 73.07 | 72.9538 | -0.2% | インドSENSEX30種 | 47751.33 | 46285.77 | -3.1% | -2.9% |
| インドネシア | USD/IDR | 14050 | 14030 | -0.1% | ジャカルタ総合 | 5979.073 | 5862.352 | -2.0% | -1.8% |
| 韓国 | USD/KRW | 1086.51 | 1118.6 | 3.0% | 韓国総合株価 | 2873.47 | 2976.21 | 3.6% | 0.6% |
| マレーシア | USD/MYR | 4.0203 | 4.04 | 0.5% | ブルサマレーシアKLCI | 1627.21 | 1566.4 | -3.7% | -4.2% |
| フィリピン | USD/PHP | 48.03 | 48.077 | 0.1% | フィリピン総合 | 7139.71 | 6612.62 | -7.4% | -7.5% |
| シンガポール | USD/SGD | 1.3221 | 1.329 | 0.5% | シンガポールST | 2843.81 | 2902.52 | 2.1% | 1.5% |
| 台湾 | USD/TWD | 28.094 | 28.018 | -0.3% | 台湾加権 | 14732.53 | 15138.31 | 2.8% | 3.0% |
| タイ | USD/THB | 29.959 | 29.915 | -0.1% | タイSET | 1449.35 | 1466.98 | 1.2% | 1.4% |

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2020年12月時点)



■ 実質GDP成長率

| | 2019Q2 | 2019Q3 | 2019Q4 | 2020Q1 | 2020Q2 | 2020Q3 | 2020Q4 | 2019 | 2020 |
|------------------|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | (前年比%、*前期比年率%) | | | | | | | (前年比%) | |
| 先進国 | | | | | | | | | |
| 米国* | 1.5 | 2.6 | 2.4 | -5.0 | -31.4 | 33.4 | | 2.2 | -3.5 |
| 日本* | 0.3 | 0.7 | -7.2 | -2.1 | -29.2 | 22.9 | | 0.3 | |
| ユーロ圏 | 1.3 | 1.4 | 1.0 | -3.2 | -14.7 | -4.3 | | 1.3 | |
| 英国 | 1.5 | 1.4 | 1.2 | -2.4 | -20.8 | -8.6 | | 1.4 | -8.6 |
| 豪州 | 1.7 | 2.0 | 2.2 | 1.4 | -6.4 | -3.8 | | 2.0 | |
| カナダ* | 4.3 | 1.8 | 0.4 | -7.3 | -38.1 | 40.5 | | 1.9 | |
| エマージングアジア | | | | | | | | | |
| 中国 | 6.2 | 6.0 | 6.0 | -6.8 | 3.2 | 4.9 | | 6.0 | |
| 香港 | 0.4 | -2.8 | -3.0 | -9.1 | -9.0 | -3.5 | | -1.2 | -6.1 |
| インド | 5.2 | 4.4 | 4.1 | 3.1 | -23.9 | -7.5 | | 8.3 | 6.8 |
| インドネシア | 5.1 | 5.0 | 5.0 | 3.0 | -5.3 | -3.5 | | 5.0 | |
| 韓国 | 2.1 | 2.0 | 2.3 | 1.4 | -2.7 | -1.1 | | 2.0 | -1.4 |
| マレーシア | 4.8 | 4.4 | 3.6 | 0.7 | -17.1 | -2.7 | | 4.3 | |
| フィリピン | 5.4 | 6.3 | 6.7 | -0.7 | -16.9 | -11.5 | | 6.0 | -9.5 |
| シンガポール | 0.2 | 0.7 | 1.0 | -0.3 | -13.3 | -5.6 | -3.8 | 0.7 | -5.8 |
| 台湾 | 2.9 | 3.3 | 3.7 | 2.5 | 0.4 | 3.9 | | 3.0 | 3.0 |
| タイ | 2.4 | 2.6 | 1.5 | -2.0 | -12.1 | -6.4 | | 2.4 | -12.1 |

(注)インドの年間成長率は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

| | 20/05 | 20/06 | 20/07 | 20/08 | 20/09 | 20/10 | 20/11 | 21/12 | 2019 | 2020 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| | (%) | | | | | | | | (%) | |
| 先進国 | | | | | | | | | | |
| 米国 | 13.3 | 11.1 | 10.2 | 8.4 | 7.8 | 6.9 | 6.7 | 6.7 | 3.7 | 8.1 |
| 日本 | 2.9 | 2.8 | 2.9 | 3.0 | 3.0 | 3.1 | 2.9 | 2.9 | 2.4 | 2.8 |
| ユーロ圏 | 7.6 | 7.9 | 8.7 | 8.6 | 8.5 | 8.4 | 8.3 | | 7.6 | 7.9 |
| 英国 | 4.1 | 4.1 | 4.3 | 4.5 | 4.8 | 4.9 | 5.0 | | 3.8 | 4.3 |
| 豪州 | 7.1 | 7.4 | 7.5 | 6.8 | 6.9 | 7.0 | 6.8 | 6.6 | 5.2 | 6.5 |
| カナダ | 13.7 | 12.5 | 10.9 | 10.2 | 9.2 | 9.0 | 8.6 | 8.8 | 5.7 | 9.6 |
| エマージングアジア | | | | | | | | | | |
| 中国 | | 3.8 | | | 4.2 | | | 4.2 | 3.6 | 4.0 |
| 香港 | 5.9 | 6.2 | 6.1 | 6.1 | 6.4 | 6.4 | 6.3 | 6.6 | 2.9 | 5.5 |
| インドネシア | | | | 7.1 | | | | | 5.1 | 6.0 |
| 韓国 | 4.5 | 4.3 | 4.2 | 3.2 | 3.9 | 4.2 | 4.1 | 4.6 | 3.8 | 4.0 |
| マレーシア | 5.3 | 4.9 | 4.7 | 4.7 | 4.6 | 4.7 | 4.8 | | 3.3 | 4.5 |
| フィリピン | | | 10.0 | | | | | 8.7 | 5.1 | 10.4 |
| シンガポール | | 2.8 | | | 3.6 | | | 3.2 | 2.3 | 3.0 |
| 台湾 | 4.2 | 4.0 | 3.9 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 3.8 | 3.7 | 3.9 |
| タイ | 1.9 | | 2.2 | 1.9 | 1.8 | 2.1 | 2.0 | 1.5 | 1.0 | 1.6 |

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

| | 20/04 | 20/05 | 20/06 | 20/07 | 20/08 | 20/09 | 20/10 | 20/11 | 20/12 | 2019 | 2020 |
|------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|------|
| | (前年比%) | | | | | | | | | (前年比%) | |
| 先進国 | | | | | | | | | | | |
| 米国 | 0.3 | 0.1 | 0.6 | 1.0 | 1.3 | 1.4 | 1.2 | 1.2 | 1.4 | 1.8 | 1.2 |
| 日本 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 0.2 | | -0.4 | -0.9 | -1.2 | 0.5 | 0.0 |
| ユーロ圏 | 0.3 | 0.1 | 0.3 | 0.4 | -0.2 | -0.3 | -0.3 | -0.3 | -0.3 | 1.2 | 0.3 |
| 英国 | 0.8 | 0.5 | 0.6 | 1.0 | 0.2 | 0.5 | 0.7 | 0.3 | 0.6 | 1.8 | 0.9 |
| 豪州 | | | -0.3 | | | 0.7 | | | 0.9 | 1.6 | 0.9 |
| カナダ | -0.2 | -0.4 | 0.7 | 0.1 | 0.1 | 0.5 | 0.7 | 1.0 | 0.7 | 1.9 | 0.7 |
| エマージングアジア | | | | | | | | | | | |
| 中国 | 3.3 | 2.4 | 2.5 | 2.7 | 2.4 | 1.7 | 0.5 | -0.5 | 0.2 | 2.9 | 2.5 |
| 香港 | 1.9 | 1.5 | 0.7 | -2.3 | -0.4 | -2.2 | -0.2 | -0.2 | -0.7 | 2.9 | 0.3 |
| インド | 7.2 | 6.3 | 6.2 | 6.7 | 6.7 | 7.3 | 7.6 | 6.9 | 4.6 | 3.7 | 6.6 |
| インドネシア | 2.7 | 2.2 | 2.0 | 1.5 | 1.3 | 1.4 | 1.4 | 1.6 | 1.7 | 2.8 | 2.0 |
| 韓国 | 0.1 | -0.3 | 0.0 | 0.3 | 0.7 | 1.0 | 0.1 | 0.6 | 0.5 | 0.4 | 0.5 |
| マレーシア | -2.9 | -2.9 | -1.9 | -1.3 | -1.4 | -1.4 | -1.5 | -1.7 | -1.4 | 0.7 | -1.1 |
| フィリピン | 2.2 | 2.1 | 2.5 | 2.7 | 2.4 | 2.3 | 2.5 | 3.3 | 3.5 | 2.5 | 2.6 |
| シンガポール | -0.7 | -0.8 | -0.5 | -0.4 | -0.4 | 0.0 | -0.2 | -0.1 | 0.0 | 0.6 | -0.2 |
| 台湾 | -1.0 | -1.2 | -0.8 | -0.5 | -0.3 | -0.6 | -0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.6 | -0.2 |
| タイ | -3.0 | -3.4 | -1.6 | -1.0 | -0.5 | -0.7 | -0.5 | -0.4 | -0.3 | 0.7 | -0.8 |

(注)豪州は四半期データ。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

| | 2019Q1 | 2019Q2 | 2019Q3 | 2019Q4 | 2020Q1 | 2020Q2 | 2020Q3 | 2019 | 2020 |
|------------------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|------|
| | (対GDP比%) | | | | | | | (対GDP比%) | |
| 先進国 | | | | | | | | | |
| 米国 | -2.3 | -2.4 | -2.4 | -2.2 | -2.1 | -2.5 | -2.6 | -2.2 | |
| 日本 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | 3.7 | 3.6 | 3.1 | 3.0 | 3.7 | |
| ユーロ圏 | 2.7 | 2.2 | 2.2 | 2.3 | 2.0 | 2.2 | 2.0 | 2.3 | |
| 英国 | -4.4 | -4.4 | -4.4 | -3.1 | -2.4 | -2.2 | -2.1 | -3.1 | |
| 豪州 | -1.7 | -0.8 | 0.2 | 0.7 | 1.2 | 1.8 | 1.9 | 0.7 | |
| カナダ | -2.4 | -2.3 | -2.3 | -2.1 | -1.9 | -1.9 | -1.7 | -2.1 | |
| エマージングアジア | | | | | | | | | |
| 中国 | 0.7 | 0.9 | 1.1 | 1.0 | 0.6 | 1.1 | 1.5 | 1.0 | |
| 香港 | 4.2 | 4.8 | 5.7 | 6.0 | 4.8 | 6.0 | 7.0 | 6.0 | |
| インド | -2.1 | -2.1 | -1.6 | -1.0 | -0.8 | 0.4 | 1.3 | -1.0 | |
| インドネシア | -3.0 | -3.0 | -2.9 | -2.7 | -2.4 | -2.1 | -1.3 | -2.7 | -0.7 |
| 韓国 | 4.7 | 4.3 | 3.8 | 3.7 | 3.8 | 3.6 | 3.8 | 3.6 | |
| マレーシア | 2.4 | 3.1 | 3.6 | 3.3 | 2.8 | 2.5 | 3.5 | 3.3 | |
| フィリピン | -2.6 | -1.5 | -1.0 | -0.1 | 0.4 | 1.5 | 2.5 | -0.1 | |
| シンガポール | 16.9 | 17.3 | 17.0 | 17.0 | 16.8 | 16.1 | 16.3 | 17.0 | 16.7 |
| 台湾 | 11.0 | 10.9 | 11.3 | 10.6 | 10.4 | 10.7 | 12.7 | 10.6 | |
| タイ | 5.0 | 5.0 | 6.2 | 7.0 | 6.7 | 6.3 | 5.7 | 7.0 | |

(注)インドの年間経常収支は会計年度(4~3月)。

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■世界の政策金利

| | | 現在(%) | 政策転換期 | | 最近の政策変更 | | 直近の政策動向 | |
|------------------|----------------|-----------|----------------|-----------|------------|--------|------------|-------|
| | | | 日付 | 水準(%) | 日付 | 変更幅 | 日付 | 決定事項 |
| 先進国 | | | | | | | | |
| 米国 | FFレート誘導目標 | 0.00-0.25 | 緩和: 2019/7/31 | 2.25-2.50 | 2020/3/15 | -100bp | 2021/1/27 | 現状維持 |
| 日本 | 無担保コール翌日物金利 | 0.10 | 緩和: 2008/10/30 | 0.50 | 2010/10/5 | 0-10bp | 2021/1/21 | 現状維持 |
| ユーロ圏 | 主要リファイナンスオペ金利 | 0.00 | 緩和: 2011/11/3 | 1.50 | 2016/3/10 | -5bp | 2021/1/21 | 現状維持 |
| 英国 | バンク・レート | 0.10 | 緩和: 2020/3/11 | 0.75 | 2020/3/19 | -15bp | 2020/12/17 | 現状維持 |
| 豪州 | キャッシュ・レート | 0.10 | 緩和: 2011/11/1 | 4.75 | 2020/11/3 | -15bp | 2020/12/1 | 現状維持 |
| カナダ | 翌日物金利 | 0.25 | 緩和: 2020/3/4 | 1.75 | 2020/3/27 | -50bp | 2021/1/20 | 現状維持 |
| エマージングアジア | | | | | | | | |
| 中国 | 1年物貸出基準金利(LPR) | 3.85 | 緩和: 2012/6/8 | 6.31 | 2020/4/20 | -20bp | 2021/1/20 | 現状維持 |
| インド | 翌日物レポ金利 | 4.00 | 緩和: 2019/2/7 | 6.50 | 2020/5/22 | -40bp | 2020/12/4 | 現状維持 |
| インドネシア | 7日物リバースレポレート | 3.75 | 緩和: 2019/7/18 | 6.00 | 2020/11/19 | -25bp | 2021/1/21 | 現状維持 |
| 韓国 | 7日物レポ金利 | 0.50 | 緩和: 2019/7/18 | 1.75 | 2020/5/28 | -25bp | 2021/1/15 | 現状維持 |
| マレーシア | 翌日物金利 | 1.75 | 緩和: 2019/5/7 | 3.25 | 2020/7/7 | -25bp | 2021/1/20 | 現状維持 |
| フィリピン | 翌日物金利 | 2.00 | 緩和: 2019/5/9 | 4.75 | 2020/11/19 | -25bp | 2020/12/17 | 現状維持 |
| タイ | 翌日物レポ金利 | 0.50 | 緩和: 2019/8/7 | 1.75 | 2020/5/20 | -25bp | 2020/12/23 | 現状維持 |
| ベトナム | リファイナンス金利 | 4.00 | 緩和: 2012/3/12 | 15.00 | 2020/10/1 | -50bp | 2020/10/1 | -50bp |

(注)インドネシア中銀は2016年8月19日に政策金利をBILレートから7日物リバースレポレートに変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行